

郡山遺跡第144次調査

—仙台市あすと長町土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書IV—

2010年3月

仙 台 市 教 育 委 員 会
独立行政法人 都市再生機構



SD 1 溝跡出土須恵器



確認調査9 レンチ出土縄文土器

序 文

仙台市の文化財保護行政に対しまして、日ごろからご理解、ご協力を賜り感謝申し上げます。

市内には、旧石器時代から近世にいたるまで数多くの埋蔵文化財が残っております。当教育委員会といたしましても、先人たちの貴重な文化遺産を保護し、保存・活用を図りながら次の世代に継承していくよう努めているところであります。

本報告書は、多賀城造営以前の陸奥国府と考えられ、国史跡指定を受けた郡山遺跡の西側に位置し、平成 10 年から進められている「仙台市あすと長町土地区画整理事業」に伴う、平成 13 年度の郡山遺跡の調査成果をまとめたものです。

区画整理事業に伴う調査では、総数 500 軒近くの堅穴住居跡が発見されており、飛鳥～奈良時代の集落としては、東北地方でも最大級の集落がこの事業地内にあったことが明らかになってきました。しかもこの集落は、郡山遺跡の官衙の造営や運営に携わった人々の計画的に造られた集落であり、出土遺物の内容からは、関東地方との人的・物的交流があったことなども考えられております。

さらに官衙に関する遺構としては、II 期官衙外溝西辺と北西コーナー部、今回報告した I 期官衙に関連する溝跡を発見するなど、調査の開始から 10 年を経て、官衙の構造に係わる発見だけでなく、これまで未解明であった郡山遺跡官衙の周辺での人々の生活が、我々の目の前に姿を現してきております。

当教育委員会では、発掘調査状況の公開・活用を進めるため、調査の概要を紹介する広報板の掲示や遺跡見学会の開催など、今後もより多くの市民の皆様に興味を持っていただけるような活動を行っていきたいと考えております。そのためにも、今回の調査成果が、地域の歴史を解き明かしていくための貴重な資料となり、多くの方々に活用されれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から本報告書の刊行に際しまして、ご指導、ご協力くださいました皆様に深く感謝申し上げる次第です。

平成 22 年 3 月

仙台市教育委員会
教育長 荒井 崇

例　　言

1. 本書は、「仙台市あすと長町土地区画整理事業」に伴い、平成13年に仙台市教育委員会が実施した郡山遺跡（第144次調査）の発掘調査の成果についてまとめたものである。
2. 本書の刊行にあたっては、仙台市教育委員会文化財課 工藤信一郎、荒井格の監理の下、遺物実測・トレース、遺構図トレース、遺物写真撮影、執筆、編集に至るまでの作業を株式会社シン技術コンサルが担当した。
3. 本書の執筆については、第Ⅰ・Ⅲ章を工藤、第Ⅱ章1・2、第Ⅶ・Ⅸ章を藤田、第Ⅱ章3・第Ⅳ～Ⅵ章を福井が担当した。
4. 自然科学分析については、プラント・オパール及び花粉分析を株式会社古環境研究所に依頼した。
5. 調査成果については、すでに現地説明会資料などに内容の一部が紹介されているが、本書の記載内容がそれに優先するものである。
6. 調査・整理に関する全ての資料は、仙台市教育委員会が保管している。

凡　　例

1. 遺構図中の座標系は、「平面直角座標第X系」を基準としている。図中及び本文記載の方位北は、全て座標北を基準としている。
2. 本文中の土色の記述には、原則として「新版標準土色帖」(小山正忠・竹原秀雄 1997)を使用している。
3. 調査において検出された遺構については以下の遺構番号を使用し、遺構ごとに番号を付した。
S D : 溝跡 S E : 井戸跡 S K : 土坑 S X : 性格不明遺構 P : ピット
4. 出土遺物の登録には以下の遺物記号を使用し、遺物ごとに番号を付した。
A : 繩文土器 B : 弥生土器 C : 土師器 (非ロクロ) E : 須恵器
G : 瓦 K : 石器・石製品 N : 金属製品 P : 土製品
5. 遺物実測図に使用したスクリーントーンの凡例は以下のとおりである。
 土師器黒色処理  磁石器磨り面  溶解物付着 
6. 遺物実測図の縮尺は、以下のとおりである。但し、その縮尺では掲載が困難なものについては、適宜縮尺を変えている。各図にはそれぞれスケールを付した。
土器類・土製品・磁石器・金属製品 1 / 3 剥片石器・古銭 1 / 2
7. 掲載した遺物写真の縮尺は、原則として実測図と同じ縮尺とした。但し、その縮尺で掲載が困難なものについては、適宜縮尺を変えている。

目 次

巻頭カラー

序 文

例 言

凡 例

第Ⅰ章 調査に至る経過	1
1. 調査事由	1
2. 調査要項	1
第Ⅱ章 遺跡の位置と環境	2
1. 位置と地理的環境	2
2. 歴史的環境	4
3. 郡山遺跡のこれまでの調査成果	5
第Ⅲ章 調査の方法と概要	6
1. 調査の方法	6
2. 調査概要	6
第Ⅳ章 基本層序	8
第Ⅴ章 確認調査区の検出遺構と出土遺物	9
1. 1トレンチ	10
2. 2トレンチ	12
3. 3トレンチ	14
4. 4トレンチ	15
5. 5トレンチ	17
6. 6トレンチ	18
7. 7トレンチ	20
8. 8トレンチ	22
9. 9トレンチ	24
第Ⅵ章 本調査区の検出遺構と出土遺物	29
1. 溝跡	29
2. 井戸跡	30
3. 性格不明遺構	30
第Ⅶ章 自然科学分析	45
第Ⅷ章 出土遺物と検出遺構について	52
1. 出土遺物について	52
2. 検出遺構について	59
第Ⅸ章 調査成果のまとめ	61
写真図版	
報告書抄録	

挿図目次

第1図 調査地点位置図	2	第24図 本調査区遺構配置図	31.32
第2図 郡山遺跡及び周辺の遺跡位置図	3	第25図 SD 1～6溝跡・SD 6ピット1	33
第3図 調査区全体図	7	第26図 SD 1溝跡出土遺物（1）	35
第4図 確認調査区配置図	9	第27図 SD 1溝跡出土遺物（2）	36
第5図 1トレンチ平面図・出土遺物	10	第28図 SD 1溝跡出土遺物（3）	37
第6図 1トレンチ土層断面図	11	第29図 SD 1溝跡出土遺物（4）	38
第7図 2トレンチ平面・土層断面図	12	第30図 SD 1溝跡出土遺物（5）	39
第8図 2トレンチ出土遺物	13	第31図 SD 1溝跡出土遺物（6）	40
第9図 3トレンチ平面・土層断面図・出土遺物	14	第32図 SD 1溝跡出土遺物（7）	41
第10図 4トレンチ平面図	15	第33図 SD 2溝跡出土遺物	43
第11図 4トレンチ土層断面図	16	第34図 SD 5溝跡出土遺物	43
第12図 4トレンチ出土遺物	16	第35図 SD 6溝跡出土遺物	43
第13図 5トレンチ平面・土層断面図	17	第36図 SE 1・2井戸跡平面・土層断面図	44
第14図 6トレンチ平面図	18	第37図 SX 1・2性格不明遺構平面・ 土層断面図	44
第15図 6トレンチ土層断面図	19	第38図（図1）郡山遺跡（2丁目地区）における プランツ・オ・バール分析結果	47
第16図 6トレンチ出土遺物	19	第39図（図2）郡山遺跡、第9トレンチ東壁 における花粉ダイアグラム	50
第17図 7トレンチ平面図	20	第40図 土師器分類図	53
第18図 7トレンチ土層断面図	21	第41図 須恵器分類図	55
第19図 8トレンチ平面図	22	第42図 SD 1溝跡遺物出土状態図	58
第20図 8トレンチ土層断面図・出土遺物	23	第43図 I期官衙との位置関係図	60
第21図 9トレンチ平面・土層断面図	25.26		
第22図 9トレンチ遺物出土状態図	27		
第23図 9トレンチ出土遺物	28		

第Ⅰ章 調査に至る経過

1. 調査事由

「仙台市あすと長町土地区画整理事業」は、仙台市太白区長町に計画された「長町地区新都市整備計画」に伴い実施されることになった事業である。事業計画地内には、周知の遺跡として西台畠遺跡・郡山遺跡が所在していたが、長町駅東遺跡は、平成3年及び4年に旧国鉄貨物ヤード跡地を対象に実施された確認調査によって発見された遺跡である。その後、仙台市教育委員会と事業主体者である住宅・都市整備公団（現独立行政法人都市再生機構）は本事業の施行に伴う埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行い、事業地内の計画路線にかかる西台畠遺跡・長町駅東遺跡及び郡山遺跡の一部について発掘調査を実施することとなった。

発掘調査は事業計画の進行に合わせて実施することとし、平成10年の西台畠遺跡の調査から開始した。郡山遺跡については、平成13年から区画整理事業地内区画道路を対象として、今回報告する22～25街区の道路計画部分から調査を開始し、これまでに下記の調査を実施している。

仙台市あすと長町関係郡山遺跡年度別調査成果一覧

調査年度	調査次数	調査事由	調査成果
平成13年 (2001)	144次調査	22～25街区区画道路	I期官衙関連溝跡・溝跡7条・井戸跡2基 縄文～弥生時代遺物包含層
平成16年 (2004)	167次調査	長町八木山線・環状線	住居跡17軒・掘立柱建物跡8棟・溝跡9条・土坑10基 河川跡（広瀬川？）
平成17年 (2005)	167次調査	長町八木山線	住居跡6軒・掘立柱建物跡1棟・土坑 II期官衙外溝北西コーナー部・河川跡（広瀬川？）
平成18年 (2006)	180次調査	21街区道路幅	住居跡11軒・掘立柱建物跡1棟・溝跡6条 河川跡（広瀬川？）
平成20年 (2008)	196次調査	環状線東	古代の遺構検出無・河川跡 縄文～弥生時代遺物包含層
平成21年 (2009)	196次調査	環状線東	住居跡9軒・掘立柱建物跡6棟・溝跡27条・土坑 水田跡（弥生時代中期）

2. 調査要項

遺跡名：郡山遺跡（仙台市文化財登録番号C-104）

所在地：仙台市太白区郡山二丁目

（1）平成13年度調査体制

調査期間：2001年（平成13年）8月6日～2001年（平成13年）12月19日

調査主体：仙台市教育委員会

調査担当：仙台市教育委員会文化財課調査係 主査 工藤信一郎 文化財教諭 藤井勝哉
主任 荒井 格

調査対象面積 3,500m² 本調査面積 2,800m²

下層調査（弥生時代遺物包含層） 268m² （縄文時代遺物包含層） 84m²

（2）平成21年度調査報告書作成体制

整理担当：仙台市教育委員会文化財課調査係 主査 荒井 格 主任 工藤信一郎

整理体制：（株）シン技術コンサル 総括責任者・主任調査員 藤田亮一

調査員 菊池康一郎（7月まで） 福井流星（8月から） 計測員 松田秀貴

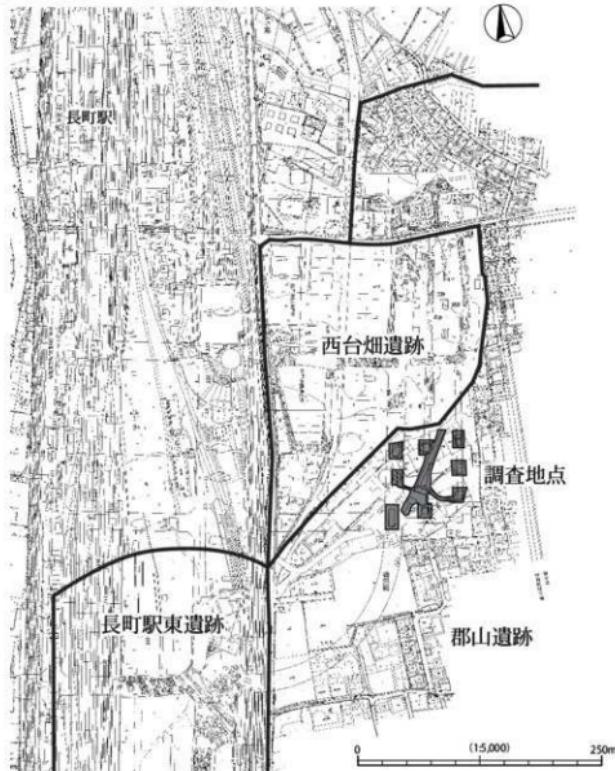
第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

1. 位置と地理的環境

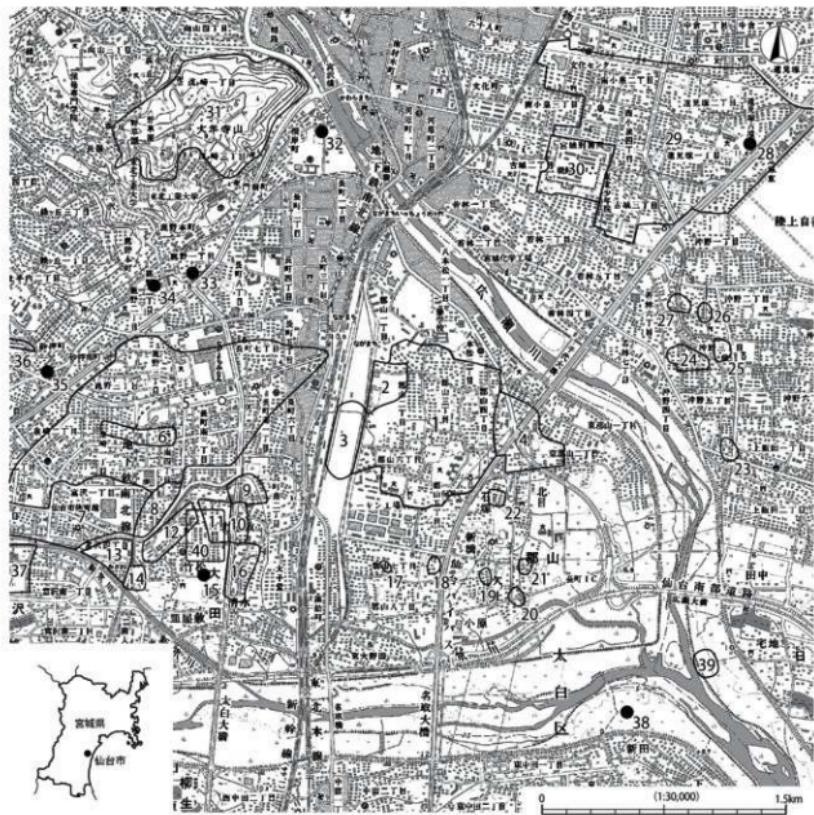
郡山遺跡は仙台市の南東部、太白区郡山二丁目～六丁目に所在する遺跡である。遺跡の範囲は東西 800 m、南北 900 m で、面積は約 60 万 m² に及ぶ。調査地点は JR 長町駅から南東約 450 m に位置し、本遺跡の西端部分にあたり北側は西台畠遺跡に隣接する（第 1・2 図）。

宮城県中央部の地形は、山形県境沿いに南北に連なる奥羽山脈と、ここより派生する青葉山丘陵・高館丘陵と、東に広がる宮城野海岸平野と呼ばれる沖積平野からなる。この平野は、地理的条件・成因・地質などから地形区分されており、仙台市南部の広瀬川と名取川の合流点の両河川に挟まれた一帯を郡山低地、広瀬川以北を霞ノ目低地、名取川以南を名取低地と呼んでいる。

郡山遺跡は、このなかの郡山低地の中央からやや東寄りに位置し、北東を流れる広瀬川右岸にあたり、標高 8 ~ 11 m の自然堤防と後背湿地上に立地している。



第 1 図 調査地点位置図



国土地理院発行 数値地図 1/25,000「仙台」を使用

No.	遺跡名	種別	立地	時代	No.	遺跡名	種別	立地	時代
1	鹿島山遺跡	古墳	自然堤防・後背隣接	縄文～中世	21	久ノノノ道跡	仙台地	自然堤防	古墳～平安
2	大竹山遺跡	集落跡	後背隣接	弥生・平安	22	矢太山遺跡	仙台地	自然堤防	古墳・古代
3	日向野原遺跡	墓葬跡	水田隣接	自然堤防・後背隣接	23	矢折山遺跡	仙台地	自然堤防	古墳
4	北日向遺跡	M字跡	(自然堤防)	中世	24	砂押山遺跡	仙台地	自然堤防	古墳～平安
5	寛永山遺跡	台地跡・集落跡	後背隣接	旧石器～近世	25	中塙内遺跡	仙台地	自然堤防	古墳～平安
6	寛永山遺跡	台地跡	自然堤防	縄文・弥生・平安	26	神稚内遺跡	仙台地	自然堤防	古墳～平安
7	山ノ道跡	台地跡・水田跡	自然堤防	縄文・弥生・奈良・平安	27	砂押山遺跡	仙台地	自然堤防	古墳～平安
8	下ノ内道跡	集落跡	自然堤防	縄文～平安	28	通見山古墳	前方後円墳	自然堤防	古墳
9	下ノ内道跡	集落跡	自然堤防	奈良・平安	29	南小山遺跡	集落跡	自然堤防	弥生～中世
10	大野山遺跡	城跡	自然堤防	縄文・弥生	30	若林城跡	城跡	自然堤防	中世・近世
11	笠前遺跡	集落跡・官署	自然堤防	縄文～平安	31	茂ヶ崎城跡	城跡	丘陵	中世
12	六反古道跡	集落跡	自然堤防	縄文～平安	32	兜塚古墳	前方後円墳	自然堤防	古墳
13	下ノ内道跡	集落跡	自然堤防	縄文～平安	33	一塙古墳	前方後円墳	自然堤防	古墳
14	伊古田跡	集落跡	自然堤防	縄文～平安	34	二塙古墳	前方後円墳	自然堤防	古墳
15	扇町塚古墳	古墳	自然堤防	古墳	35	砂押山古墳	前方後円墳	自然堤防	古墳
16	猪の頭跡	城跡	自然堤防・後背隣接	縄文～中世	36	1号手塚古墳	横六古墳・古跡	自然堤防	古墳
17	堤防遺跡	集落跡	自然堤防	奈良・平安	37	高須跡跡	城跡	自然堤防	中世
18	堤防遺跡	集落跡	自然堤防	古墳～平安	38	大塙山古墳	古墳	自然堤防	古墳
19	久ノノ道跡	小田跡	自然堤防	平安・中世	39	日邊古跡	集落跡	河川敷	古墳
20	久ノノ道跡	集落跡	自然堤防	平安～平安	40	大野田古跡跡	古跡	自然堤防	古墳～奈良

第2図 郡山遺跡及び周辺の遺跡位置図

2. 歴史的環境

仙台市南部の太白区内には、名取川の両岸や青葉山丘陵の先端にあたる向山・土手内の丘陵部にかけて多くの遺跡が所在している。ここでは広瀬川と名取川の合流点を中心に、代表的な遺跡を概観してみる（第2図）。

<旧石器時代>

本遺跡の西側には富沢遺跡（5）があり、約2万年前の後期旧石器時代の地層から多数の石器が出土している。また、火を焚いた跡・樹木・木葉・種子などの植物化石や動物の糞などが発見され、当時の人類活動の様子や湿地帯の自然環境を窺うことができる。

<縄文時代>

名取川の支流で北側を流れる笊川の両岸には、山口（7）・下ノ内浦（8）・大野田（10）・袋前（11）・六反田（12）・下ノ内（13）・伊古田（14）・王ノ壇（16）などの遺跡群が集中している。下ノ内浦遺跡では後期の墓域群・大野田遺跡では後期の環状集石群が発見され、墓域などと祭祀の場であったことが確認されている。また、六反田遺跡では中期の竪穴住居跡が発見されている。

<弥生時代>

西台畠（2）・長町駅東（3）・富沢・山口・大野田・中柵西（25）・南小泉（29）遺跡などがある。本遺跡の北側に隣接する西台畠遺跡では、昭和32年粘土採掘時に土器棺墓が発見されている。また、西側に隣接する長町駅東遺跡4区では水田跡・土器埋設遺構・土壤塁などの遺構と、それらに伴って土器・石器・玉類などが出土している。富沢遺跡では広範囲にわたる水田跡が発見され、東北地方の稻作文化を考える上で貴重な遺跡となっている。

<古墳時代>

鳥居塚（15）・遠見塚（28）・兜塚（32）・一塚（33）・二塚（34）・砂押（35）・大塚山（38）古墳や、土手内横穴群（36）・大野田官衙遺跡（40）などがある。遠見塚古墳は、東北でも有数の規模を誇る前期末～中期初頭にかけての前方後円墳である。古墳の周辺に広がる南小泉遺跡では、古墳時代全般にわたる集落跡が確認されており、当該期の中心的地域と考えられている。また、東側に位置する大年寺・愛宕山の丘陵地斜面では無数の横穴墓が造られており、副葬品の内容から郡山遺跡官衙に関連した人々の集団墓地の可能性が指摘されている。大野田官衙遺跡からは、これまでに溝跡に囲まれた大型の掘立柱建物跡が6棟発見され、規則的な配置や規模の大きさ、純柱式の倉庫風の建物跡であることなどから官衙跡の存在が想定されていた。建物の基準が真北であることや、8世紀前半代に機能を終えていることなどから、北東に約1.5km離れた郡山遺跡II期官衙に関連する施設で、各種の行政事務を執り行う「曹司」の可能性が考えられており、今年度遺跡登録された。

<奈良時代>

本遺跡の北東側に陸奥国分寺・陸奥国分尼寺などが造られる。大規模な集落跡は確認されていないが、下ノ内浦・元袋（9）・六反田・伊古田遺跡などからは竪穴住居跡が発見されており、小規模集落の存在は確認されている。

<平安時代>

この時代になると、自然堤防上で竪穴住居跡が増加し集落も拡大していくが、本遺跡周辺では水田跡の形成が多くみられ、集落としての痕跡は減少している。生産跡として富沢・山口遺跡で、水田跡が検出されている。

<中世>

北目城跡（4）・富沢・山口・王ノ壇・欠ノ上I（19）・南小泉遺跡・若林城跡（30）などがある。沖積平野上に城館跡や屋敷跡が発見されており、山口・南小泉遺跡では屋敷跡、王ノ壇遺跡では多数の掘立柱建物跡・井戸跡・墓跡や信仰に関連する遺構・遺物などが検出されている。富沢・欠ノ上I遺跡では、水田跡が検出されている。

<近世>

伊達政宗が仙台城に移る前に一時入城したとされる北目城跡は、本遺跡の東側に隣接している。さらに広瀬川を

挟んだ北側には、正宗の隠居城として造られたとされる若林城跡が位置している。

3. 郡山遺跡のこれまでの調査成果

郡山遺跡の発掘調査は、昭和 54 年（1979）の宅地造成に伴う事前調査によって、官衙の存在を示唆する掘立柱建物跡や円面鏡などが発見されたのを契機に調査が開始された。翌年からは、遺跡の範囲や性格究明のための国庫補助事業による調査が継続的に行われている。平成 18 年（2006）には古代国家成立に関わる重要な遺跡であることから「仙台郡山官衙遺跡群 郡山官衙遺跡 郡山廃寺跡」として国史跡に指定された。以下、これまでの調査成果により明らかとなった点を略述する。なお、詳細については、仙台市文化財調査報告書第 283 集「郡山遺跡発掘調査報告書－総括編－」を参照していただきたい。

- ①官衙は「Ⅰ期官衙」と「Ⅱ期官衙」の 2 時期があり、Ⅰ期官衙は 7 世紀中頃～7 世紀末にかけての陸奥国の建国に関わった重要な柵跡、Ⅱ期官衙は 7 世紀末～多賀城創建期までの陸奥国府跡と考えられる。
- ②Ⅰ期官衙は真北から東へ 30°～40°（西に 50°～60°）振れた方向を基準に造られ、規模は東西 300m、南北 600m 程で、材木列や溝跡で区画された方形の院が連結して構成される。院は機能ごとに形成されており、中枢部、倉庫院、雑舎院や居住域と考えられる堅穴住居群などが検出されている。
- ③Ⅱ期官衙はⅠ期官衙を取り壊して真北を基準に造られ、方四町Ⅱ期官衙・南方官衙・郡山廃寺・寺院西方建物群・寺院東方建物群から構成される。
- ④方四町Ⅱ期官衙の外郭は材木列・大溝・外溝により構成される。外溝内側の一辺は約 533m で、この区画の大きさは、藤原京の条坊区画線の一単位分の長さと同じであることから、設計段階で藤原京との関連性が考えられている（註 1）。内部には政庁があり、中央南寄りに四面廂付建物の正殿、その前面に「ロ」字形に建物が配置され、さらに、その東西には楼閣を含む建物群が東西対称に整然と配置される。また、正殿の北東後方に他の地方官衙では類例のない石組塀・石敷構造が配置されており、蝦夷への饗給・儀式が執り行われていたと考えられている。
- ⑤南方官衙は方四町Ⅱ期官衙外溝の南側に位置する建物群で、方四町Ⅱ期官衙内部の建物と同等或いはそれ以上の規模のもので構成される。現時点では建物の性格などについて不明な点が多いが、その規模から重要な機能を果たしていたと推定されている。
- ⑥郡山廃寺は南方官衙の南側に位置し、東西 120～125m、南北 167m を材木列で区画され、その内部に伽藍が配置される。検出された遺構は講堂、区画溝跡（推定金堂跡）、僧房、南門、北西隅門、井戸跡などがある。塔は確認されていないが、講堂の南東、寺院区画中心線上に位置する畠地に戰前まで巨石が露出していたという伝承があることから、塔が存在したと推定されている。伽藍配置は東に塔、西に金堂、北に講堂を配置するもので、主要伽藍を囲う回廊ではなく、全国的にみても類例の少ない伽藍配置といえる。
- ⑦寺院西方建物群は郡山廃寺の北西に位置する建物群で、材木列により区画される。検出されている遺構は総柱建物跡が多く、倉庫群の可能性が考えられている。寺院東方建物群は郡山廃寺の東側に位置する建物群で、溝により区画される。建物の規模が小さく、土器の出土量が他の地区に比べ多いことから、官人層の居住域と推定されている。

註 1：『仙台市文化財調査報告書第 347 集 郡山遺跡 29 平成 20 年度発掘調査概報』
「第 6 章 総括」（2009）

第Ⅲ章 調査の方法と概要

1. 調査の方法

(1) 調査区の設定

今回の調査は、区画整理事業地内の東側に位置する22~25街区に計画された区画道路を対象に調査を実施することとなった（註1）。調査対象地は、調査直前までセメント工場が操業しており、過去に工場造成に伴う大規模な搅乱を受け遺構面に大きな影響を受けていることが想定された。本調査区の設定にあたっては、事前に試掘調査を行い遺構面の遺存状況などを確認し、調査計画を立案することにした。

2. 調査概要

(1) 調査経過

試掘トレーニングによる確認調査を行い、その結果対象区域の全域で表土下約1m~1.5mに大規模な搅乱が確認され、本来の古代の遺構面については削平を受けていると判断されたが、全長62.5mにおよぶ溝跡の底面が残存していることが確認された。検出された溝跡の位置や方向を確認したところ、郡山遺跡Ⅰ期官衙西辺推定ラインから約75mに位置し、南北方向では官衙西辺に並行していることが明らかになった（註2）。

試掘調査成果

①対象区域の全域で表土下約1m~1.5mに及ぶ大規模な搅乱が確認され、本来の古代の遺構面については削平を受けている。

②大規模な溝跡の底面が残存していることが確認された。検出された溝跡の位置や方向を確認したところ、郡山遺跡Ⅰ期官衙西辺推定ラインから約75mに位置し、南北方向では官衙西辺に並行していることが明らかになった。

③古代の遺構が確認されなかったトレーニングでは下層調査を実施し、南側の9トレーニングで縄文~弥生時代の遺物包含層が確認された。

そこで今後の調査について、事業者である住宅都市整備公団と協議を行い、今回の調査については、豊穴住居跡などの遺構がなく溝跡の調査が主となることから、本来の調査区域である道路部分だけでなく、宅地部分も調査対象に加えて可能な範囲で溝跡の延長を調査し、遺構の性格を明らかにしていくこととした。

遺物包含層の確認された9トレーニングについては、南側に拡張を行い、下層調査区を設定し、弥生時代中期楔形印式期および縄文時代晚期後葉の遺物包含層を検出した。

(2) 測量基準・図面の作成

測量は、「平面直角座標系第X系」を基準としている。5×10mを単位とする平面区配図を作成し、調査区北端を1とし、西端の46までの番号を付し遺構図面の作成を行った（第3図）。本文中で遺構の所在位置を示す場合は、この番号をグリッド番号として使用している。

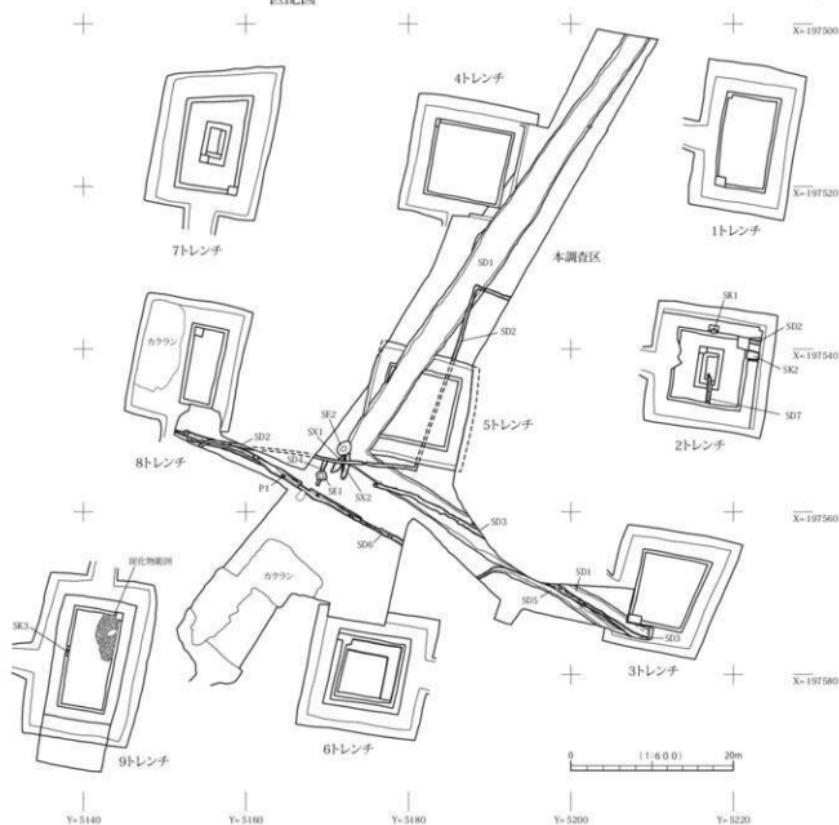
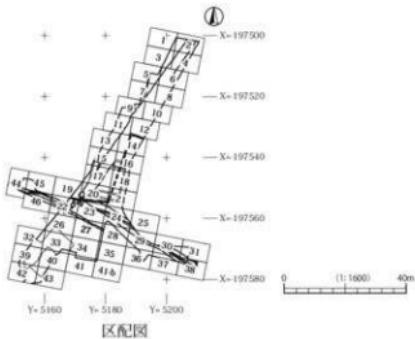
(3) 遺物の取り上げ・調査記録の作成

遺物の取り上げにあたっては、測量基準とした平面区配図の番号をグリッド名として利用した。原則として、5×10m単位で取り上げている。特に必要と認められた遺物については、出土状態とレベルを記録している。

整理作業の段階で、主な遺構については遺構観察カードを作成し、事実記載及び調査時の所見を記録している。

(4) 遺構登録番号

遺構登録番号については、郡山遺跡を対象としたあすと長町土地区画整理事業に伴う調査としては初年度であることから、それぞれ1番からの通し番号とした。



第3図 調査区全体図

(5) 調査報告書作成作業

調査報告書作成に伴う整理作業について、委託業務により実施することとした。整理作業は、出土遺物の基礎整理（水洗・注記・接合・修復）、弥生土器の拓本・断面実測、遺構図面基礎整理、記録写真整理までを仙台市が行い、出土遺物の登録・実測図作成・遺物図版の作成、遺構図面のデジタル化と遺構図版の作成及び原稿執筆を（株）シン技術コンサルが行った。その間必要に応じて整理作業内容の確認・協議を行っている。特に、石器・弥生土器・土師器の実測図及びトレースについては、仙台市西台畠遺跡発掘調査事務所において点検を行った。

註1：郡山遺跡については、遺跡の範囲と性格を明らかにするための調査計画を立案し、国庫補助事業として昭和55年（1980）以来継続的な調査を実施しており、調査次数が付与されている。今回の調査については、あすと長町土地区画整理事業の施行に伴う最初の調査であるが、郡山遺跡全体の調査次数では第144次調査として報告されている。

註2：郡山遺跡Ⅰ期宮衙西辺推定ラインからの距離について、これまで約50mとして報告してきたが、今回の報告書作成に当たり図面を合成し測定したところ約75mであることが明らかになった。

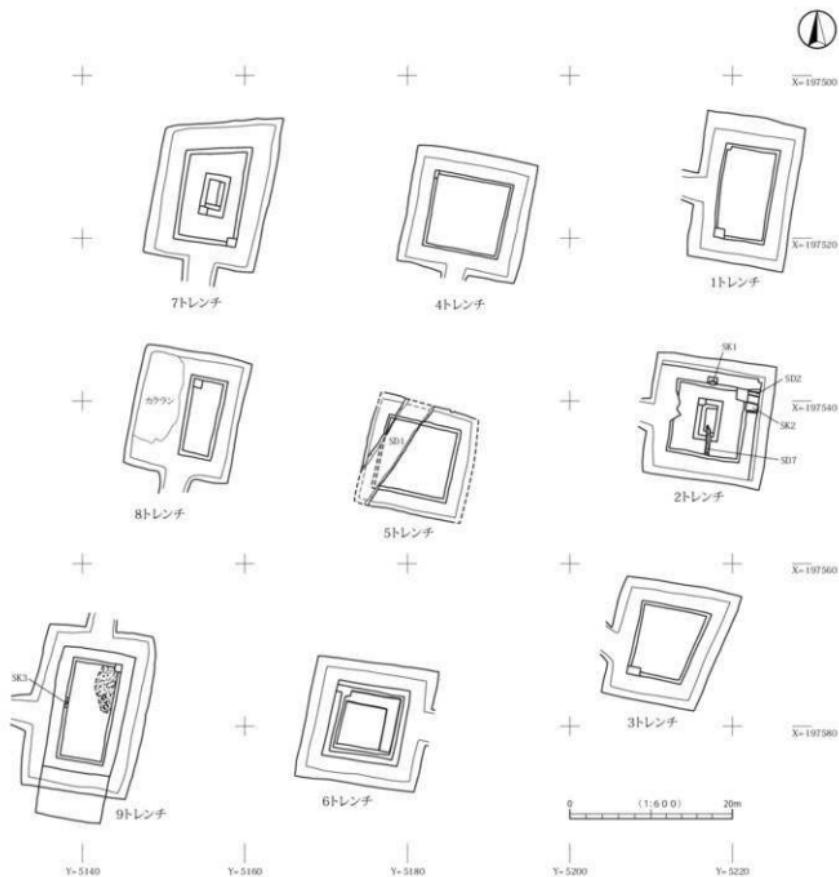
第IV章 基本層序

調査は当初、遺構の広がりやその性格を把握するため、調査対象地区内の9箇所にトレンチを設定し、確認調査を行った（第4図）。調査区の標高は約10mで、層厚約1mの整地土が堆積していた。分層は整地土より下層からを行い、層番を付した。基本層序は1トレンチで6層、2トレンチで13層、3トレンチで6層、4トレンチで6層、5トレンチで5層、6トレンチで8層、7トレンチで11層、8トレンチで7層、9トレンチで7層に大別された。各トレンチで確認された基本層は、トレンチがそれぞれ15～20m程離れているため、土色、含有物などが若干異なるが、概ね対応関係にあると考えられる。

- I層 黒色を基調とするシルト或いは粘土質シルト層で、地点により3層または7層に細分される。グラフィカが顕著な箇所ではオリーブ黒色を呈する。
- II層 黒褐色～灰黄色を基調とするシルト或いは粘土質シルト層で、地点により3層または5層に細分される。グラフィカが顕著な箇所では暗緑灰色やオリーブ灰色を呈する。古代の遺構検出面。
- III層 黒褐色～暗灰黄色を基調とする粘土質シルト層で、地点により2層に細分される。SK 3（9トレンチ）検出面。
- IV層 黒色～黄灰色を基調とする粘土質シルト層で、地点により土質が異なる。炭化物集中範囲検出面。
- V層 褐灰色～灰黄色を基調とする粘土質シルト層で、地点により2層に細分され、土質が異なる。繩文時代晚期の遺物包含層。SD 7（2トレンチ）検出面。
- VI層 黒褐色～灰黄色を基調とする粘土質シルト層で、地点により土質が異なる。
- VII層 褐灰色～灰黄色を基調とする粘土質シルト層。
- VIII層 黄灰色～灰色を基調とする砂質シルト層で、地点により土質が異なる。
- IX層 黄灰色～明褐色を基調とする粘土質シルト或いは砂質シルト層。
- X層 灰色～オリーブ灰色を基調とする粘土質シルト或いは砂質シルト層。
- XI層 暗オリーブ灰色を基調とする砂或いは粘土質シルト層。
- XII層 暗緑灰色粘土質シルト層。
- XIII層 緑灰色砂質シルト層。

第V章 確認調査区の検出遺構と出土遺物

確認調査で検出された遺構は溝跡3条、土坑3基、性格不明遺構2基である。そのうち、5トレンチで検出した溝跡(SD1)はⅠ期官衙西辺推定ラインから西側約75mの地点を平行するように走行する大溝で、その規模や方向からⅠ期官衙に関連する施設と考えられる。その他、古代以前の文化層の有無を確認するため、下層調査を行った結果、遺構は検出されなかったが、9トレンチで縄文時代晚期後葉の遺物包含層を1面確認した。



第4図 確認調査区配置図

1. 1 トレンチ (第4~6図、写真図版3・10)

調査対象地区内の北東に、東西12m、南北18mのトレンチを設定し調査を行った。II~V層上面で遺構検出を行ったが、遺構は検出されなかった。但し、調査区壁面の土層観察において水田土壤の可能性のある層（III a・IV層）を確認したため、調査区東壁で土壤サンプルを探取し、プランツ・オパール分析（第VII章）を行った。

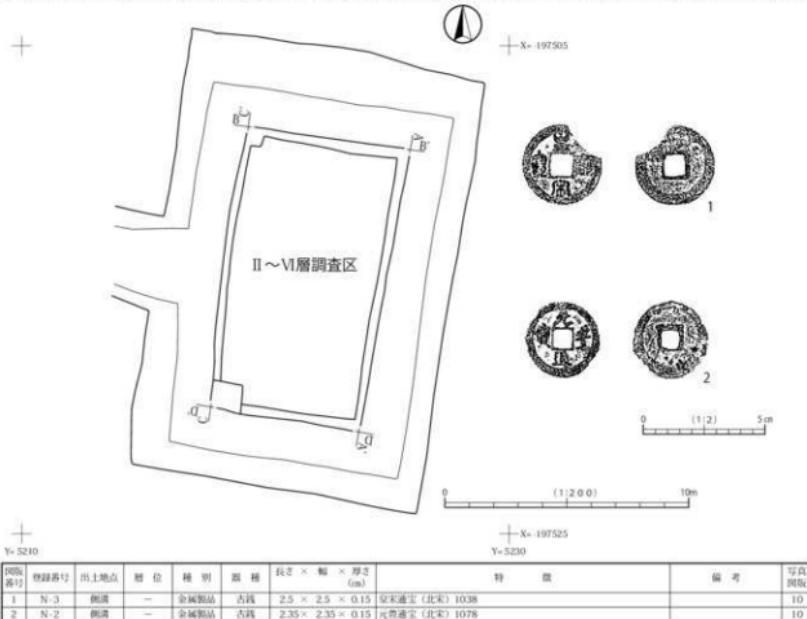
(1) 基本層序

基本層はI~VI層に大別された。I層はオリーブ黒色粘土質シルトを主体とし、下部でII a層土を含む。層厚は5~25cmである。II層は2層に細分され、II a層は暗緑灰色粘土質シルトを主体とし、酸化鉄の集積がみられる。調査区全面に堆積し、層厚は13~37cmである。II b層は暗灰黄色粘土質シルトを主体とする。部分的に堆積し、層厚は2~8cmである。III層は2層に細分され、III a層は黄灰色粘土質シルトを主体とし、下部でIV層土の搅拌がみられることから水田土壤の可能性が考えられる。層厚は3~15cmである。III b層はにぶい黄橙色粘土質シルトを主体とする。部分的に堆積し、層厚は2~10cmである。IV層は黒褐色粘土質シルトを主体とするIII層土との混土層で、水田土壤の可能性が考えられる。層厚は5~20cmである。V層は褐灰色粘土質シルトを主体とし、上部でIV層土を含む。層厚は3~23cmである。VI層は灰黄褐色砂質シルトを主体とする。

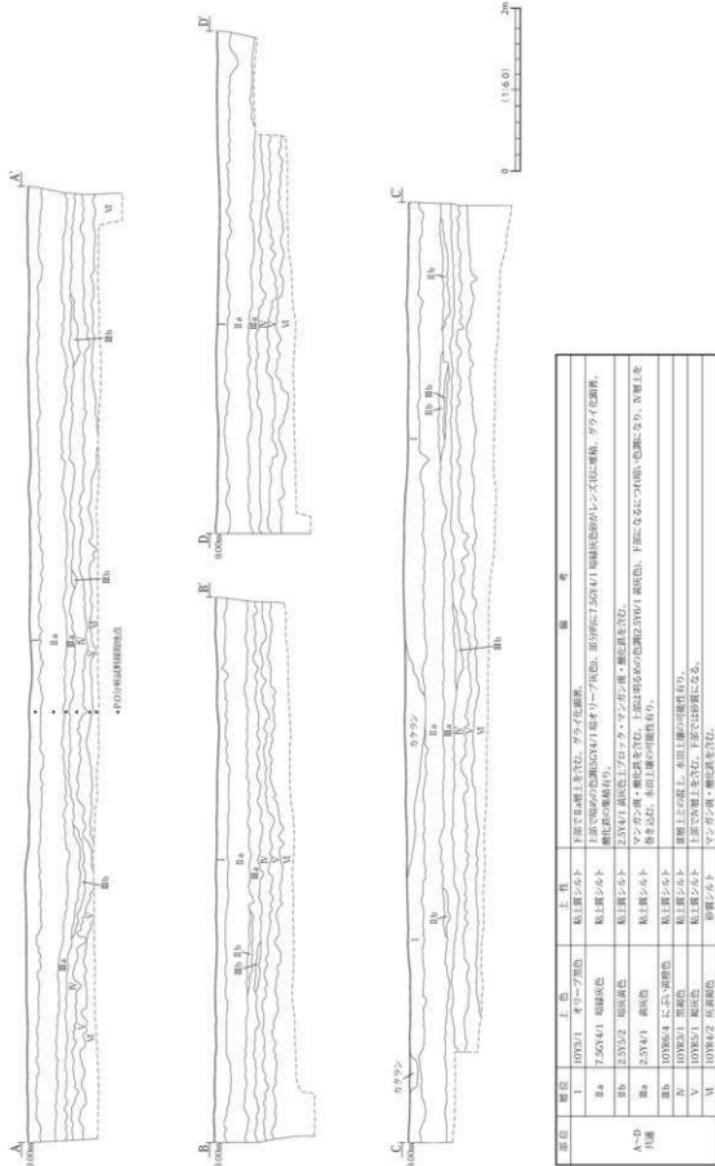
(2) 遺構と遺物

遺構 検出されなかった。

遺物 土師器、須恵器、金属製品が出土しており、そのうち、金属製品2点を図示した。1・2とも古銭で、側溝から出土しているため、側溝掘削時に1層より混入したものと考えられる。1は皇宋通宝、2が元豊通宝である。



第5図 1トレンチ平面図・出土遺物



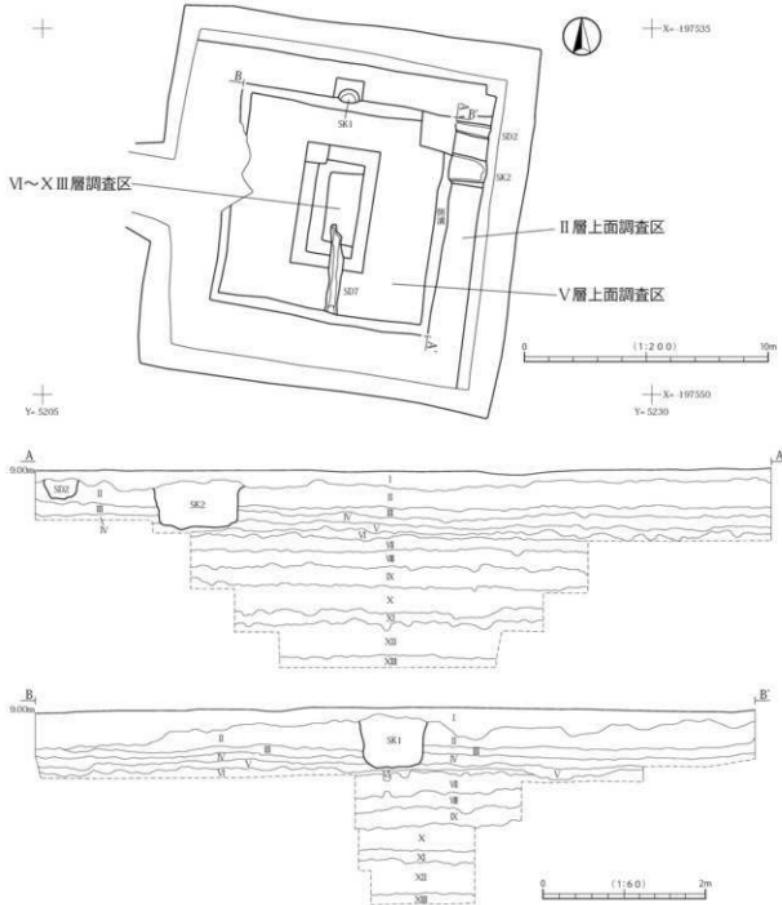
第6図 1トレンチ土層断面図

2.2 トレンチ (第4・7・8図、写真図版3・10)

調査対象地区内の東に、東西15m、南北15mのトレンチを設定し調査を行った。II～V層上面で遺構検出を行い、II層上面でSD2、SK1・2、V層上面でSD7を検出した。SD2は本調査においても検出されているため、詳細は次章で記載する。

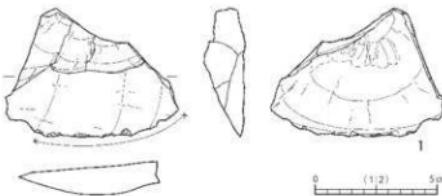
(1) 基本層序

基本層はI～XIII層に大別された。I層は黒色シルトを主体とし、下部でII層土を含む。層厚は9～44cmである。II層はオリーブ灰色粘土質シルトを主体とし、層厚は3～37cmである。III層は黄灰色粘土質シルトを主体とし、層厚は4～15cmである。IV層は褐灰色粘土質シルトを主体とし、層厚は4～17cmである。V層は灰黄褐色粘



第7図 2トレンチ平面・土層断面図

部位	層位	土色	土性	備考
A+B 共通	I	2.5GY2/1 黒色	シルト	下部で5Y3/1 オリーブ黒色上・Ⅱ層上を含む。
	II	2.5GY5/1 オリーブ灰色	粘土質シルト	酸化鉄を全体に含む。上部でグライ化過程。下部で2.5GY6/2 暗緑色土が層状に堆積。
	III	2.5Y3/1 黄灰色	粘土質シルト	酸化鉄を全体に含む。
	IV	1.0Y8/1 褐灰色	粘土質シルト	酸化鉄を全体に含む。
	V	1.0Y8/2 灰褐色	粘土質シルト	酸化鉄を全体に含む。
	VI	2.5Y7/2 灰褐色	砂質シルト	酸化鉄を全体に多量含む。1.0Y8/1 褐灰色粘土を含む。
	VII	2.5Y6/1 黄灰色	シルト	酸化鉄を全体に多量含む。やや砂質。
	VIII	2.5Y4/1 黄灰色	粘土質シルト	酸化鉄を全体に多量含む。粘性が極めて強い。
	IX	2.5Y3/1 黄灰色	粘土質シルト	堆積上・酸化鉄を全体に少量含む。
	X	1.0Y4/1 褐色	粘土質シルト	炭化物を微量含む。
SK1	I	1.0Y8/4/1 褐灰色	粘土質シルト	5GY5/1 オリーブ灰色土ブロック・Ⅲ層上ブロック・Ⅳ層上ブロックを含む。
	XII	2.5GY4/1 暗緑色	砂質シルト	炭化物を微量含む。
SK2	I	2.5GY2/1 オリーブ灰色	シルト	酸化鉄を全体に少量含む。1.0GY4/1 暗緑色土ブロック・Ⅲ層上ブロックを含む。



開拓番号	地盤番号	出土地点	層位	種別	面種	長さ × 幅 × 厚さ (cm)	重 量(g)	石 材	備 考	写真 回数
1	Ka-4	-	IV層	打製石器	剥片	5.3 × 7.1 × 1.7	41.6	流紋岩	末端に微細剥離有り	10

第8図 2トレーンチ出土遺物

土質シルトを主体とし、下部で褐灰色土が層状に堆積する。層厚は4~11cmである。VI層は灰黄色砂質シルトを主体とし、褐灰色粘土を含む。層厚は1~14cmである。VII層は黄灰色シルトを主体とし、層厚は11~27cmである。VIII層は黄灰色粘土質シルトを主体とし、層厚は12~25cmである。IX層は黄灰色粘土質シルトを主体とし、VIII層土を少量含む。層厚は14~26cmである。X層は灰色粘土質シルトで、層厚は20~34cmである。XI層は暗オリーブ灰色粘土質シルトを主体とし、層厚は7~19cmである。XII層は暗緑灰色砂質シルトを主体とし、層厚は29~45cmである。XIII層は緑灰色砂質シルトを主体とする。

(2) 遺構と遺物

SK1 土坑 調査区北側、II層上面で検出した。検出した範囲での規模は長軸86cm、短軸55cm、検出面からの深さは55cmである。推定される平面形は円形または梢円形で、断面形は箱型を呈する。堆積土は単層で褐灰色シルトを主体とし、オリーブ灰色土ブロック・II層土ブロック・III層土ブロックを含む。遺物は出土しなかった。

SK2 土坑 調査区北西側、II層上面で検出した。検出した範囲での規模は長軸156cm、短軸112cm、検出面からの深さは59cmである。断面形は箱型を呈する。堆積土は単層でオリーブ黒色シルトを主体とし、暗緑灰色土ブロック・II層土ブロックを含む。遺物は出土しなかった。

SD7溝跡 調査区南側、V層上面で検出した。南側は調査区外へ延びる。検出した範囲での規模は長さ3.6m、上幅22~55cm、下幅7~26cm、検出面からの深さは2~7cmである。方向はN-3°-Eで直線状に走行する。断面形は皿形を呈し、底面は平坦である。遺物は出土しなかった。

遺物 土師器、須恵器、打製石器が出土しており、そのうち、打製石器1点を図示した。1は流紋岩製の剥片で末端に微細剥離を有する。

3.3 トレンチ (第4・9図、写真図版4・10)

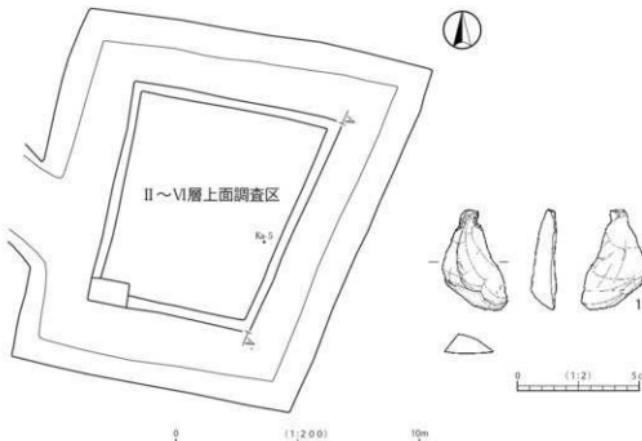
調査対象地区内の南東に、東西 11.5 ~ 14.2m、南北 15m のトレンチを設定し調査を行った。II ~ V 層上面で遺構検出を行ったが、遺構は検出されなかった。

(1) 基本層序

基本層は I ~ VI 層に大別された。I 層は 3 層に細分され、I a 層はオリーブ黒色シルトを主体とし、オリーブ灰色土ブロックを含む。層厚は 2 ~ 19cm である。I b 層はオリーブ褐色シルトを主体とし、I a 層上ブロック・I c 層上ブロックを含む。層厚は 2 ~ 25cm である。I c 層は黒色粘土質シルトを主体とし、下面で褐色土ブロックを含む。

+

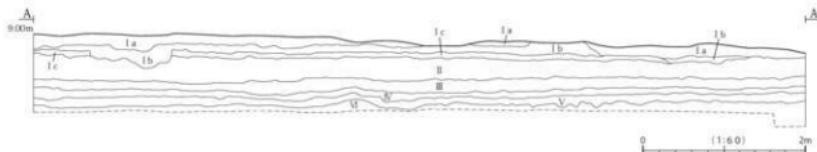
X= 197500



+

X= 197580

Y= 5225



地層名	層位	上色	土性	備考
I a	SGY2/1	オリーブ黒色	シルト	オリーブ灰土ブロックを含む。
I b	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	I a 層上ブロック・I c 層上ブロックを含む。
I c	5Y2/1	黒色	粘土質シルト	F面で2.5Y4/4 灰色土ブロックを含む。
II	2.5Y5/2	暗灰褐色	粘土質シルト	褐色泥を全体に多量含む。2.5Y3/1 黒褐色粘土を斑状に含む。上面で SGY6/1 緑灰土が層間に堆積。
III	10YR2/2	灰褐色	粘土質シルト	褐色泥を全体に含む。
IV	10YR3/1	褐色	粘土質シルト	褐色泥を全体に含む。
V	10YR3/1	褐色	粘土質シルト	褐色泥を全体に含む。下面是亂れ。VII 層上ブロックを含む。
VI	2.5Y6/2	灰褐色	砂質シルト	褐色泥を全体に多量含む。マンガニン鉄を含む。砂質が強い。

測量番号	測量番号	出土地点	層位	層位	種別	層位	長さ × 幅 × 厚さ (cm)	重 量(g)	石 材	備 考	総面積 mm²
I	Ka-5	-	B層	打削石器	石器	4.1 × 2.6 × 1.0	7.3	海紋石	ツマミ部を作出し、自然面を残す	10	

第9図 3 トレンチ平面・土層断面図・出土遺物

クを含む。層厚は3～10cmである。II層は暗灰黄色粘土質シルトを主体とし、黒褐色粘土を斑状に含み、上面では緑灰色土が層状に堆積する。層厚は16～33cmである。III層は灰黄褐色粘土質シルトを主体とし、層厚は8～17cmである。IV層は黒褐色粘土質シルトを主体とし、層厚は3～15cmである。V層は褐灰色粘土質シルトを主体とし、層厚は4～15cmである。VI層は灰黄色砂質シルトを主体とし、酸化鉄を多量に含む。

(2) 遺構と遺物

遺構 検出されなかった。

遺物 土師器、須恵器、打製石器が出土しており、そのうち、打製石器1点を図示した。1は流紋岩製のツマミ部のみを作出した石匙である。

4. 4トレンチ（第4・10～12図、写真図版4・10）

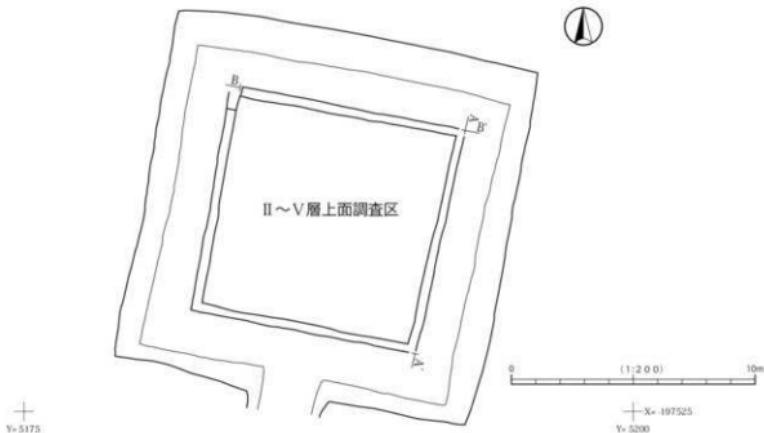
調査対象地区内の北に、東西15m、南北15mのトレンチを設定し調査を行った。II～V層上面で遺構検出を行つたが、遺構は検出されなかった。

(1) 基本層序

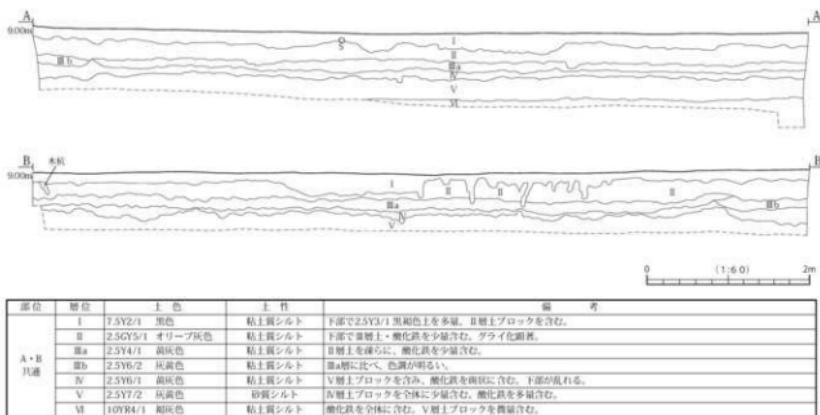
基本層はI～VI層に大別された。I層は黒色粘土質シルトを主体とし、下部で黒褐色土を多量に含む。層厚は4～28cmである。II層はオリーブ灰色粘土質シルトを主体とし、下部でIII層・酸化鉄を少量含む。層厚は2～30cmである。III層は2層に細分され、IIIa層は黄灰色粘土質シルトを主体とし、II層土を疎らに少量含む。ほぼ調査区全面に堆積し、層厚は3～17cmである。IIIb層は灰黄色粘土質シルトを主体とする。調査区北側と南側に部分的に堆積し、層厚は8～15cmである。IV層は黄灰色粘土質シルトを主体とし、V層土ブロックを含み、酸化鉄を斑状に含む。層厚は2～23cmである。V層は灰黄色砂質シルトを主体とし、IV層土ブロックを少量含む。

+

+ X= 197505



第10図 4トレンチ平面図



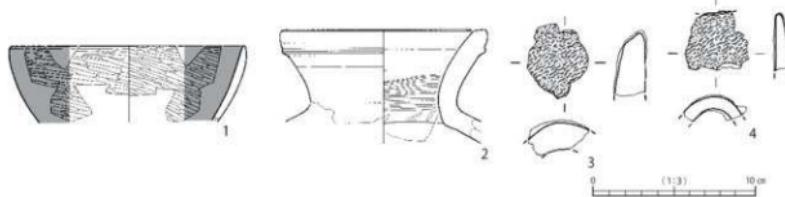
第11図 4トレンチ土層断面図

層厚は 20 ~ 29cm である。VI層は褐灰色粘土質シルトを主体とし、V層上ブロックを微量に含む。

(2) 遺構と遺物

遺構 検出されなかった。

遺物 土師器、須恵器、土製品が出土しており、そのうち、土師器1点、須恵器1点、土製品2点を図示した。1は土師器の杯で内外面ともヘラミガキ後、黒色処理が施される。2は須恵器の甕で、口縁部下に突帯が一条巡る。3・4は縲羽口で外面に溶解物の付着がみられる。



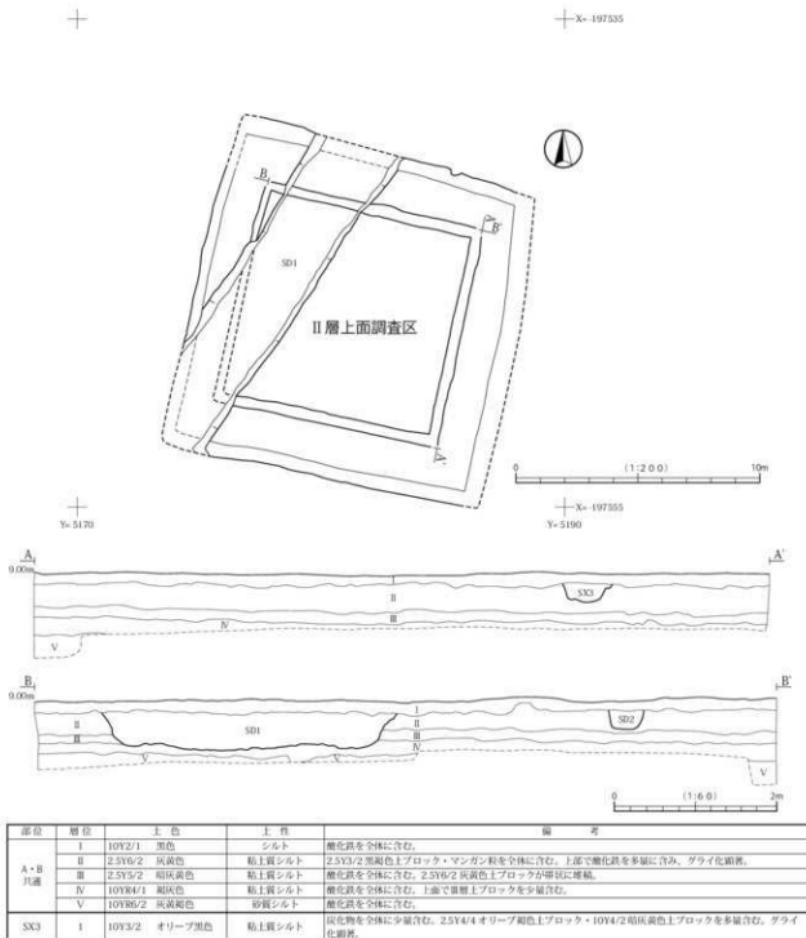
回数 基番	標記 地點	層位	種別	器種	口径 × 底径 × 高さ (cm)	外面調整	内面調整	備考	参考 写真
1 C-14	側溝	—	土師器	杯	(14.4) × — × 4.7 ヘラミガキ(黒色処理)	ヘラミガキ(黒色処理)			10
2 E-1	側溝	—	須恵器	甕	(2.8) × — × (7.0) [1.9] × [0.9] 口縁内側削り口調節、側部平行削き目	[1.9]削り口調節、底部ヘラナフ。側部削り直し			10

回数 基番	標記 地點	層位	種別	器種	長さ × 幅 × 高さ (cm)	特徴	備考	参考 写真
3 P-1	東北面	縫出面	土製品	球	(4.5) × (3.7) × 1.9 外面：溶解物付着			10
4 P-2	東北面	縫出面	土製品	球	(3.6) × (3.9) × 0.9 外面：溶解物付着			10

第12図 4トレンチ出土遺物

5.5 トレンチ（第4・13図、写真図版4）

調査対象地区内の中央に、東西13.5m、南北13.5mのトレンチを設定し調査を行った。II層上面で遺構検出を行い、SD1を検出した。また、調査区北壁、東壁の壁面観察によりII層上面から掘り込まれているSD2、SX3を検出した。SD1・2は本調査においても検出されているため、詳細は次章で記載する。



第13図 5トレンチ平面・土層断面図

(1) 基本層序

基本層はⅠ～Ⅴ層に大別された。Ⅰ層は黒色シルトを主体とし、層厚は7～18cmである。Ⅱ層は灰黄色粘土質シルトを主体とし、黒褐色土ブロック・マンガン粒を全体に含む。層厚は17～37cmである。Ⅲ層は暗灰黄色粘土質シルトを主体とし、灰黄色土ブロックが帶状に堆積する。層厚は6～16cmである。Ⅳ層は褐灰色粘土質シルトを主体とし、上面でⅢ層土ブロックを少量含む。層厚は10～22cmである。Ⅴ層は灰黄褐色砂質シルトを主体とし、層厚は27cm以上である。

(2) 遺構と遺物

S×3性格不明遺構 調査区東壁南側で検出し、Ⅱ層上面から掘り込まれている。規模は上幅61cm、下幅36cm、検出面からの深さは23cmである。断面形態は逆台形を呈する。堆積土は単層で、オリーブ黒色粘土質シルトを主体とする。遺物は出土していない。

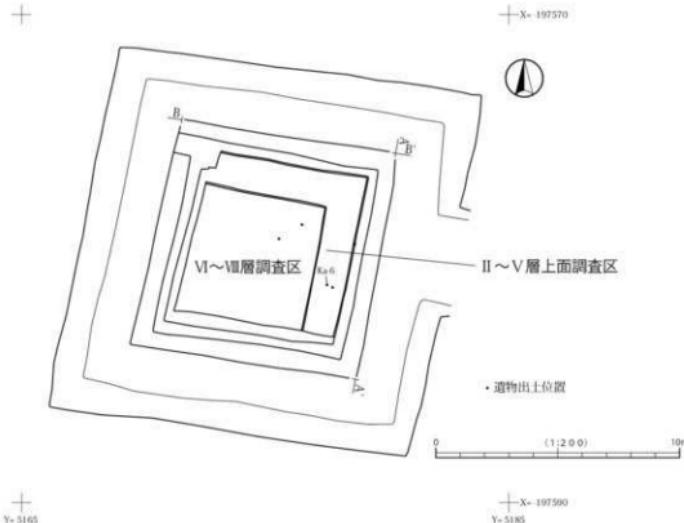
遺物 土師器、須恵器が出土しているが、細片のため図示し得なかった。

6. 6 トレンチ（第4・14～16図、写真図版4・10）

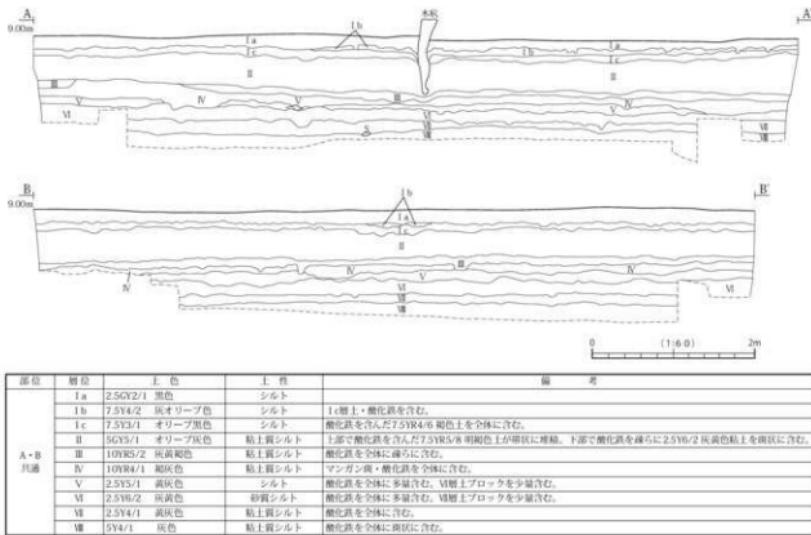
調査対象地区内の南に、東西15m、南北15mのトレンチを設定し調査を行った。Ⅱ～Ⅳ層で遺構検出を行ったが、遺構は検出されなかった。

(1) 基本層序

基本層はⅠ～Ⅴ層に大別された。Ⅰ層は3層に細分され、Ⅰa層は黒色シルトを主体とし、層厚は7～23cmである。Ⅰb層は灰オリーブ色シルトを主体とし、Ⅰc層土ブロックを含む。部分的に堆積し、層厚は3～10cmである。Ⅰc層はオリーブ黒色シルトを主体とし、褐色土を含む。層厚は2～12cmである。Ⅱ層はオリーブ灰色

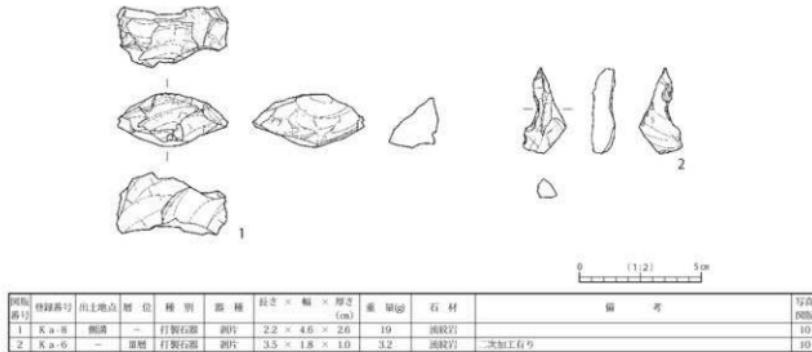


第14図 6トレンチ平面図



第15図 6 トレンチ土層断面図

粘土質シルトを主体とし、上部で明褐色土が帶状に、下部で灰黄色粘土が斑状に堆積する。層厚は 26 ~ 52cm である。III層は灰黄褐色粘土質シルトを主体とし、層厚は 3 ~ 16cm である。IV層は褐灰色粘土質シルトを主体とし、層厚は 1 ~ 31cm である。V層は黄褐色シルトを主体とし、VI層土ブロックを少量含む。層厚は 1 ~ 18cm である。VI層は灰黄色砂質シルトを主体とし、VII層土ブロックを少量含む。層厚は 4 ~ 20cm である。VII層は黄灰色粘土質シルトを主体とし、層厚は 3 ~ 21cm である。VIII層は灰色粘土質シルトを主体とする。



第16図 6 トレンチ出土遺物

(2) 遺構と遺物

遺構 検出されなかった。

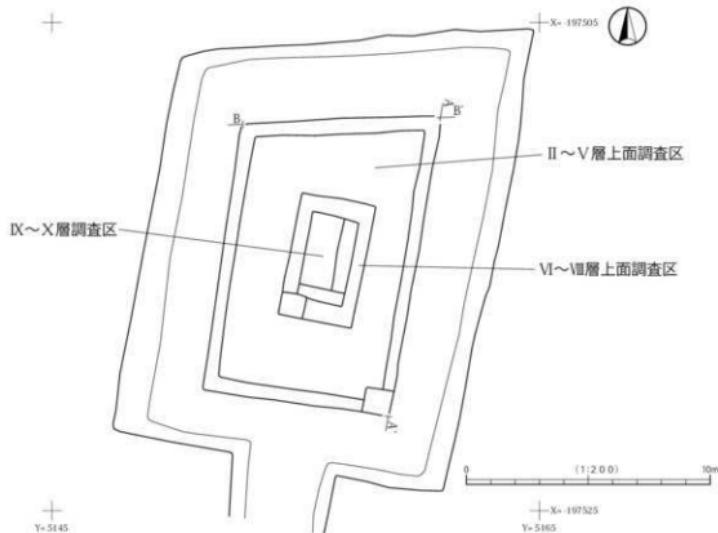
遺物 土師器、須恵器、打製石器が出土しており、そのうち、打製石器2点を図示した。1・2とも流紋岩製の剥片で、2には若干の二次加工痕がみられる。

7. 7トレンチ (第4・17・18図、写真図版4・5)

調査対象地区内の北西に、東西14～14.5m、南北15.5～19mのトレンチを設定し調査を行った。II～V層上面で遺構検出を行ったが、遺構は検出されなかった。

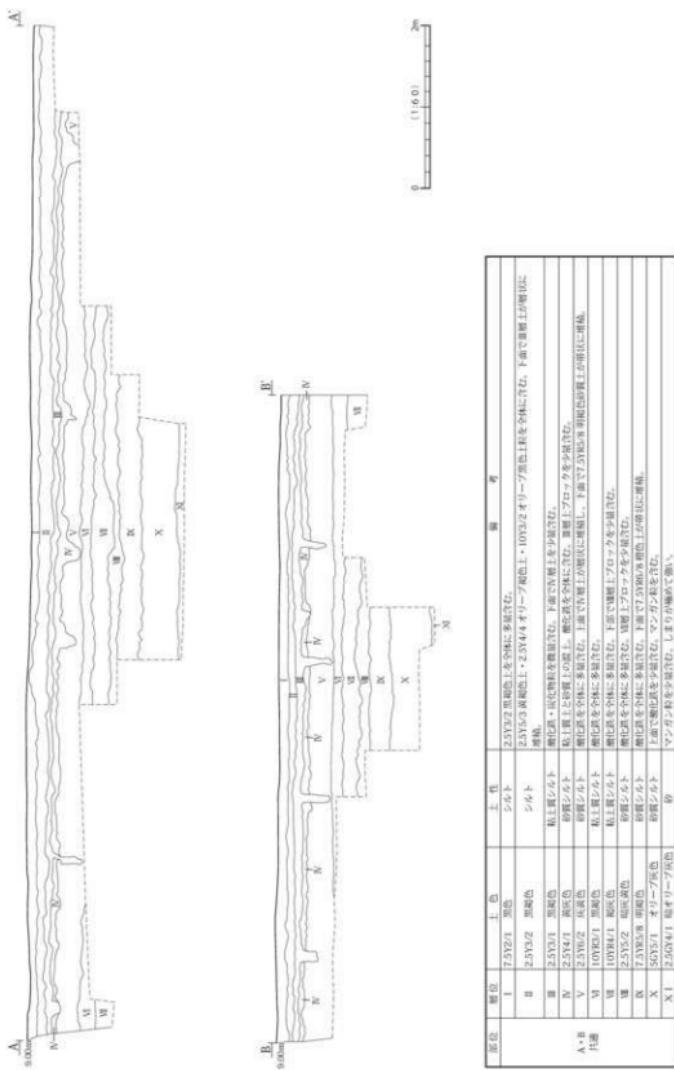
(1) 基本層序

基本層はI～X層に大別された。I層は黒色シルトを主体とし、黒褐色土を多量に含む。層厚は2～15cmである。II層は黒褐色シルトを主体とし、黄褐色土、オリーブ褐色土、オリーブ黒色土粒を含み、下面でIII層土が層状に堆積する。層厚は3～18cmである。III層は黒褐色粘土質シルトを主体とし、下面でIV層土を少量含む。層厚は4～13cmである。IV層は黄灰色砂質シルトを主体とし、III層土ブロックを少量含む。層厚は3～13cmである。V層は黄灰色砂質シルトを主体とし、上面でIV層土が層状に、下面で明褐色砂質土が帯状に堆積する。層厚は15～38cmである。VI層は黒褐色粘土質シルトを主体とし、層厚は6～15cmである。VII層は褐灰色粘土質シルトを主体とし、下部でVIII層土ブロックを少量含む。層厚は5～28cmである。VIII層は暗灰黄色砂質シルトを主体とし、VII層土ブロックを少量含む。層厚は5～20cmである。IX層は明褐色砂質シルトを主体とし、下面で橙色土が帯状に堆積する。層厚は22～30cmである。X層はオリーブ灰色砂質シルトを主体とし、層厚は39～50cmである。XI層は暗オリーブ灰色砂を主体とする。



第17図 7トレンチ平面図

第18図 テレンチ土層断面図



(2) 遺構と遺物

遺構 検出されなかった。

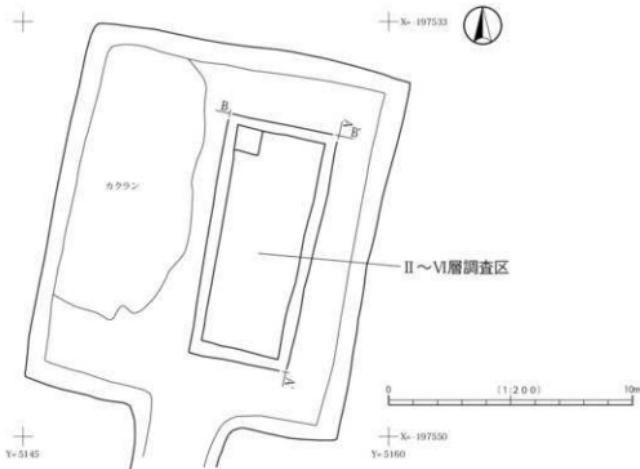
遺物 土師器、須恵器が出土しているが、細片のため図示し得なかった。

8. 8トレンチ (第4・19・20図、写真図版5・10)

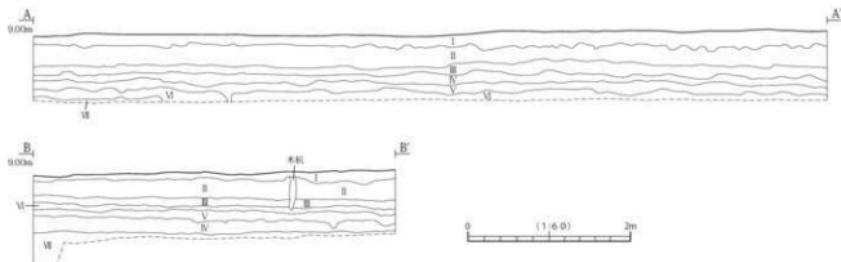
調査対象地区内の西に、東西13m、南北15～15.5mのトレンチを設定したが、西側は現代の搅乱により、大きく削平されていたため、調査区中央から東側の範囲で調査を行った。II・III・V層上面で遺構検出を行ったが、遺構は検出されなかった。

(1) 基本層序

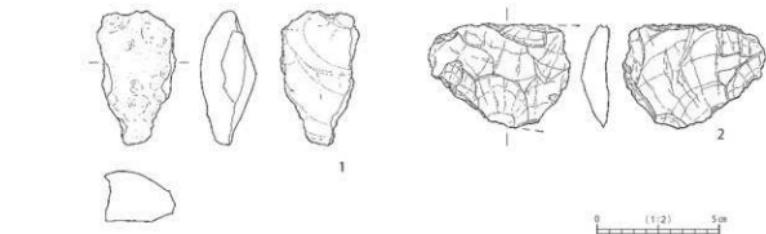
基本層はI～VII層に大別された。I層はオリーブ黒色粘土質シルトを主体とし、東側上面でオリーブ灰色土が層状に堆積し、下面で明褐色土ブロックを少量含む。層厚は3～25cmである。II層は暗灰黄色粘土質シルトを主体とし、黒褐色粘土を斑状に含む。層厚は14～31cmである。III層は灰黄褐色粘土質シルトを主体とし、黒褐色粘土を少量含む。層厚は6～18cmである。IV層は黒色粘土質シルトを主体とし、層厚は2～14cmである。V層は褐灰色粘土質シルトを主体とし、下面でVI層土ブロックを含む。層厚は5～17cmである。VI層は灰黄色砂質シルトを主体とし、層厚は6～22cmである。VII層は褐灰色粘土質シルトを主体とする。



第19図 8トレンチ平面図



部位	層位	土色	土性	備考
A+B 共通	I	5GY2/1 オリーブ黒色	粘土質シルト	東側上面で2.5GY5/1 オリーブ灰褐色が層状に堆積し、下部で7.5YR5/8 明褐色土ブロックを少量含む。グライ化泥層。
	II	2.5Y5/2 明灰褐色	粘土質シルト	酸化鉄を全層に含む。炭化物鉄を少量含む。10YR3/1 黑褐色粘土・酸化鉄を少量含む。
	III	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	10YR3/1 黑褐色粘土・酸化鉄を少量含む。
	IV	10YR2/1 黒色	粘土質シルト	酸化鉄を少量含む。
	V	10YR4/1 嫌灰色	粘土質シルト	酸化鉄を2層に含む。上面でVI層土ブロックを含む。下層が乱れる。
	VI	2.5Y6/2 灰褐色	砂質シルト	酸化鉄を全層に含む。V層に比べ砂質が強い。
	VII	10YR4/1 黒色	粘土質シルト	酸化鉄を全層に多量含む。



品目 番号	登録番号	出土地点	層位	種別	断面種	長さ × 幅 × 厚さ (cm)	重 量(g)	石 材	備 考	写真 回数
1	K-a-10	側溝	-	打製石器	刃物	5.5 × 3.2 × 2.3	35	流紋岩	自然面残す	10
2	K-a-9	側溝	-	打製石器	石庖丁	(5.9) × 4.2 × 1.0	29	粘板岩	未製品	10

第20図 8トレンチ土層断面図・出土遺物

(2) 遺構と遺物

遺構 検出されなかった。

遺物 土師器、須恵器、打製石器が出土しており、そのうち、打製石器2点を図示した。1は流紋岩製の剥片である。2は粘板岩製の石庖丁で、研磨面や擦痕はみられないことから、整形時に折損した未製品と考えられる。

9. 9 トレンチ（第4・21～23図、写真図版5・6・10・11）

調査対象地区内の南西に、東西13～14m、南北20mのトレンチを設定し調査を行った。II～VI層上面で遺構検出を行い、III層上面でSK3、IV層上面で炭化物集中範囲、調査区北壁でSX4を検出した。遺物は調査区南半のVb層で縄文時代晚期後葉の土器が残りの良い状態で3個体集中して出土した。そのため、遺物の広がりと遺構の有無を確認するため、調査区南側を約6m拡張し、調査を行った結果、遺構は検出されなかったが、III層で弥生土器が1点出土した。その他、調査区東壁にて土壤サンプルを採取し、花粉分析（第VII章）を行った。

（1）基本層序

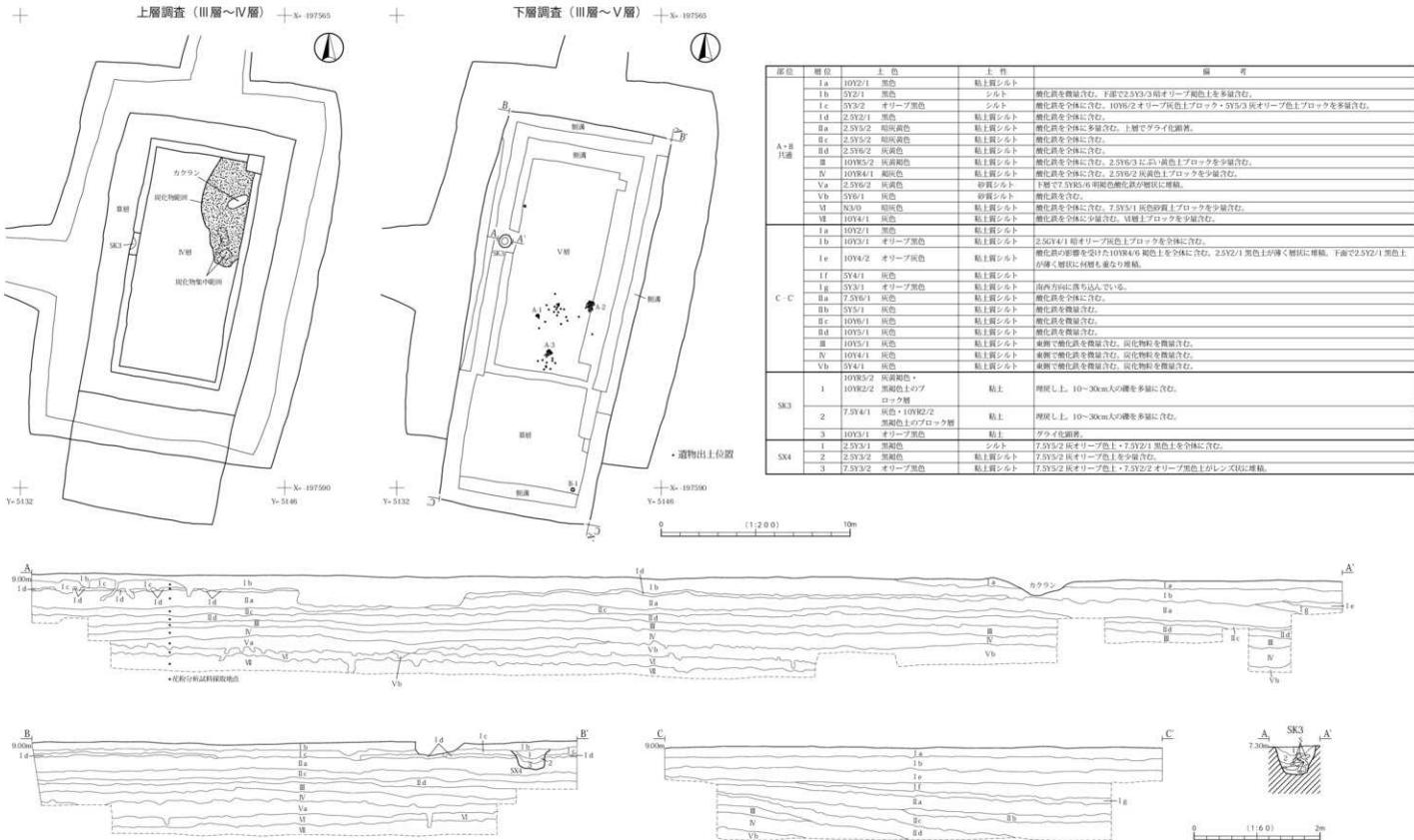
基本層はI～VII層に大別された。調査区南壁の土層観察ではIg層以下が東から西に傾斜し堆積することから、トレンチ南西側に埋没河川が存在する可能性がある。I層は7層に細分され、Ia層は黒色粘土質シルトを主体とする。調査区南側にのみ堆積し、層厚は9～21cmである。Ib層は黒色シルト～オリーブ黒色粘土質シルトを主体とする。層厚は7～47cmである。Ic層はオリーブ黒色シルトを主体とし、オリーブ灰色土ブロック、灰オリーブ色土ブロックを多量に含む。調査区北側にのみ堆積し、層厚は2～21cmである。Id層は黒色粘土質シルトを主体とし、層厚は2～9cmである。Ie層はオリーブ灰色粘土質シルトを主体とし、黒色土が薄く層状に堆積する。調査区南側にのみ堆積し、層厚は10～23cmである。If層は灰色粘土質シルトを主体とする。調査区南側にのみ堆積し、層厚は3～25cmである。Ig層はオリーブ黒色粘土質シルトを主体とする。調査区南側にのみ堆積し、層厚は4～11cmである。II層は4層に細分される。Iia・Iic層は暗灰黄色～灰色粘土質シルトを主体とする。層厚はIIa層が11～33cm、Iic層が3～28cmである。Iib層は灰色粘土質シルトを主体とする。調査区南側にのみ堆積し、層厚は8～15cmである。Iid層は灰黄色～灰色粘土質シルトを主体とする。層厚はIid層が6～22cmである。III層は灰黄褐色～灰色粘土質シルトを主体とし、炭化物粒を微量含む。層厚は6～17cmである。IV層は褐灰色～灰色粘土質シルトを主体とし、炭化物粒を微量含み、III層に比べ、色調がやや明るい。層厚は11～31cmである。V層は2層に細分され、Va層は灰黄色砂質シルトを主体とし、下部で明褐色酸化鉄が層状に堆積する。調査区北側にのみ堆積し、層厚は5～28cmである。Vb層は灰色砂質シルトまたは粘土質シルトを主体とし、酸化鉄を含み、南側では炭化物粒も微量含む。調査区中央から南側にかけて堆積し、層厚は4～24cmである。VI層は暗灰色粘土質シルトを主体とし、灰色砂質土ブロックを少量含む。層厚は2～24cmである。VII層は灰褐色粘土質シルトを主体とし、VII層土ブロックを少量含む。

（2）遺構と遺物

SK3土坑 調査区中央西側、III層上面で検出した。規模は直径66cm、検出面からの深さは42cmである。平面形は円形で、断面形は逆台形を呈する。堆積土は3層に分層され、1層は灰黄褐色粘土と黒褐色土のブロック層、2層は灰色粘土と黒褐色土のブロック層で何れも10～30cmの大の礫を多量に含み、人為的に埋め戻されたものと考えられる。3層はオリーブ黒色粘土を主体とし、扁平な円碟が埋設されている。遺物は上師器、弥生土器が出土しているが、細片のため図示し得なかった。

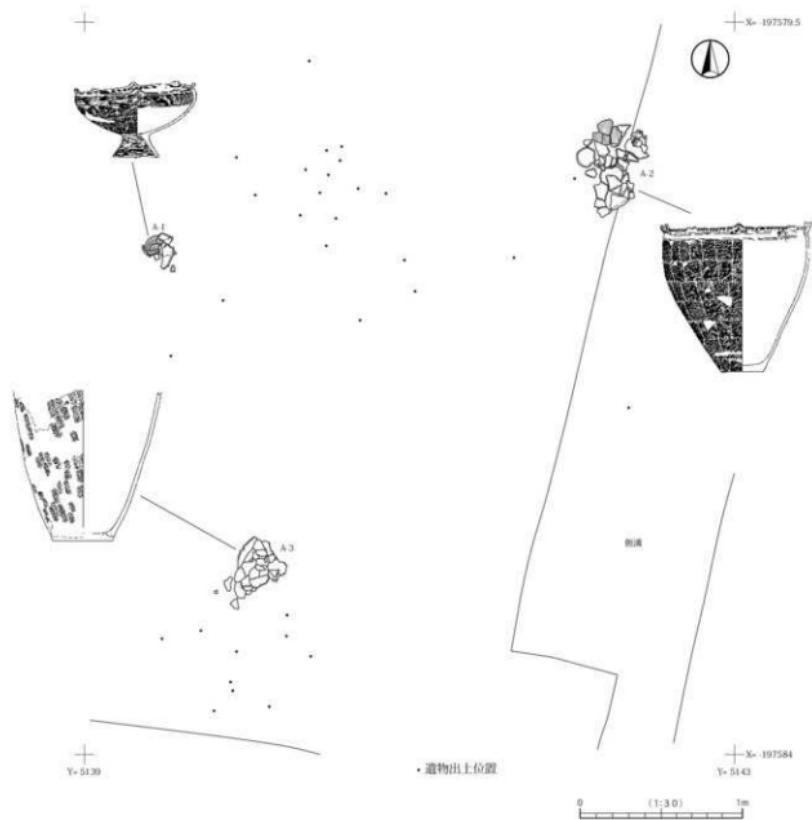
SX4性格不明遺構 調査区北壁で遺構断面のみ検出した。Ic層上面から掘り込まれている。規模は上幅61cm、下幅36cm、検出面からの深さは32cmである。断面形態は逆台形を呈する。堆積土は3層に分層される。遺物は出土していない。

遺物 須恵器、弥生土器、縄文土器、自然遺物が出土しており、そのうち、須恵器1点、弥生土器1点、縄文土器3点を図示した。1は須恵器の甕で頭部に波状文が施される。2は弥生時代中期の台付浅鉢の台部で、横走沈線を2条施し、その区画内に、長楕円形状文を2段施し、無節L縄文を充填する。3～5は縄文時代晚期後葉の土器である。3は台付浅鉢でLR縄文を地文とし、口縁部と台部には工字文が施される。4・5は深鉢で4はLR・RL縄文を地文とし、口縁部には平行沈線が施される。口唇部には4単位のA突起およびB突起がそれぞれ施され、

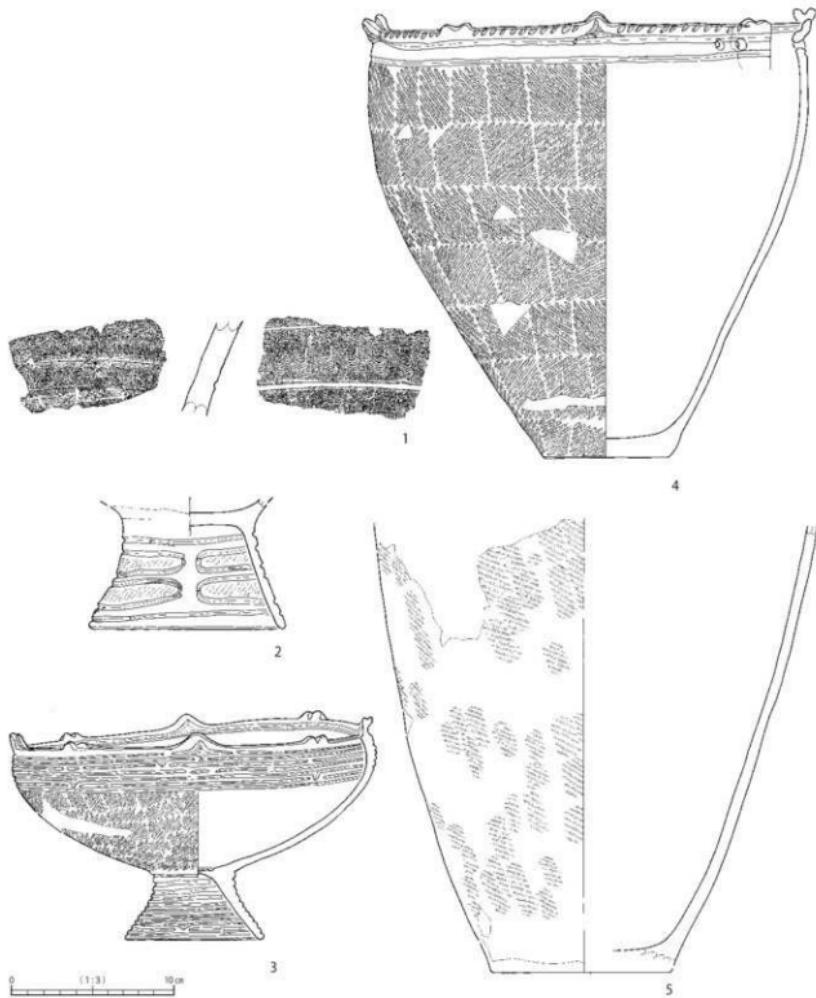


第21図 9トレンチ平面・土層断面図

突起間には刻目文が施される。また、口縁部には補修孔が穿孔される。5は無節L繩文を地文とし、内外面で炭化物の付着がみとめられる。



第22図 9トレンチ遺物出土状態図



第23図 9トレンチ出土遺物

回年 番号	標記 番号	出土 地點	層 位	種 別	器 種	口径×底径×高 (cm)	外 面 調 整・文 様	内 面 調 整・文 様	備 考	写真 番号
1	E-21	側溝	—	圓筒形	甕	— × — × —	圓底、ロクロ口部、江綱2条、櫛目き波状文	ヘラナデ		10
2	B-1	—	側溝	帶手土器	台形鉢	— × 12.1 × 8.1	白底、浅縁の2条目櫛目波状文(3半目)、1施縦網文尖端	玉手牛		10
3	A-1	—	Vb型	獨立土器	台形鉢	22.3 × 8.5 × 14.0	U網+円弧2行波紋、側縫し玉網文、口縁4半目2横の凹筋	U網+底面波状1条、瓦方牛		10
4	A-2	—	Vb型	獨立土器	深鉢	27.8 × 7.8 × 27.1	U網部平行波紋、側縫しR+R1網文交叉波状文、口縁4半目2横の突起・筋み目	口縫波状1条、瓦方牛	縫縫孔有り	10
5	A-3	—	Vb型	獨立土器	深鉢	— × (11.2) × (27.2)	U網網文、上半炭化物付着	瓦方牛、下半炭化物付着		11

第VI章 本調査区の検出遺構と出土遺物

確認調査において、I期官衙に関連する溝跡（SD 1）をII層上面で検出したため、調査区を拡張し、その規模や性格の確認を目的として本調査を行った。その結果、溝跡6条、井戸跡2基、性格不明遺構2基を検出した。これらは、検出面や遺構重複関係などからI期官衙以降の古代～中世に帰属するものと考えられる。

1. 溝跡

SD 1溝跡（第24～32図、写真図版6・7・11～16）

1～17・20・23～25・28～31・37・38グリッドに位置し、北側と東側は調査区外に延びる。SD 2、SE 1・2、SX 1・2に切られる。検出した範囲での規模は長さ南北62.5m、東西43m、上幅240～430cm、下幅196～370cm、検出面からの深さは14～59cmである。平面形は「L」字形で、20グリッドに屈曲部をもち、直角に屈曲する。方向は南北方向でN-35°-E、東西方向はN-57°-Wで直線状に走行する。断面形は逆台形を呈し、底面は屈曲部より北側は平坦で、東側は西から東へ緩やかに傾斜する。堆積土は5層に大別され、2層が水成堆積の様相を示す。遺物は土師器、須恵器、土製品、打製石器、礫石器、瓦、金属製品が出土しており、そのうち、土師器21点、須恵器18点、打製石器2点、礫石器17点、瓦1点、土製品1点、金属製品3点を図示した。

SD 2溝跡（第24・25・33図、写真図版7・16）

12・14・16・18～21・46グリッドに位置し、北東側と南西側は調査区外に延びる。規模・形態・方向が確認調査区の2トレンチで検出した溝跡と類似することから同一遺構と考えられる。SD 1・4・6、SX 1・2を切る。検出した範囲での規模は長さが南北で23.5m、東西で25.4m、上幅16～48cm、下幅6～35cm、検出面からの深さは4～26cmである。平面形はクランク状で、12・21・46グリッドに屈曲部をもつ。方向は南北方向がN-19°-E、東西方向はN-80°-Wで直線状に走行する。なお、確認調査区の2トレンチ検出部までの長さは35.7m、方向はN-69°-Wである。断面形は逆台形を呈し、底面は平坦である。堆積土は3層に分層される。遺物は土師器、須恵器、礫石器、金属製品が出土しており、そのうち、礫石器1点を図示した。1は凝灰岩製の磨石で、表裏両面に磨痕、表面と側縁に線状痕がみとめられる。

SD 3溝跡（第24・25図、写真図版7）

23～25・30・31・37・38グリッドに位置し、南東側は調査区外へ延びる。SD 1・5を切る。検出した範囲での規模は長さ38m、上幅30～78cm、下幅8～54cm、検出面からの深さは2～16cmである。方向はN-58～74°-Wで西側が若干湾曲するが、ほぼ直線状に走行する。断面形は「U」字形を呈し、底面はほぼ平坦である。堆積土は2層に分層され、黒色～オリーブ黒色粘土質シルトを主体とする。遺物は土師器、須恵器が出土しているが、細片のため図示し得なかった。

SD 4溝跡（第24・25図、写真図版8）

22グリッドに位置し、SD 2、SE 1に切られる。規模は長さ3.2m、上幅35～55cm、下幅20～40cm、検出面からの深さは4～16cmである。方向はN-19°-Eで直線状に走行する。断面形は逆台形を呈し、底面は平坦である。堆積土は2層に分層される。遺物は出土しなかった。

SD 5溝跡（第24・25・34図、写真図版8・16）

29・30・37・38グリッドに位置し、東側と西側は調査区外へ延びる。SD 3に切られ、SD 1を切る。検出した範囲での規模は長さ19.1m、上幅32～110cm、下幅14～63cm、検出面からの深さは5～40cmである。平面形は「L」字形で、29グリッドに屈曲部をもつ。方向は屈曲部より西側でN-64°-E、東側はN-57～69°-Wで直線状に走行する。断面形は逆台形を呈し、底面はほぼ平坦である。堆積土は4層に分層され、3・4層は東側にのみ堆積する。遺物は土師器、須恵器、石製品が出土しており、そのうち、須恵器2点を図示した。

S D 6溝跡（第24・25・35図、写真図版8・9・16）

22・23・27・28・44・46グリッドに位置し、西側と東側は調査区外へ延びる。S D 2に切られる。検出した範囲での規模は長さ31.5m、上幅25～103cm、下幅12～77cm、検出面からの深さは2～28cmである。方向はN-60°～73°-Wでほぼ直線状に走行する。断面形は「U」字形や壁面にテラス状の段をもつ箇所、壁面がオーバーハングする箇所があり一定ではなく、底面も凹凸の頗著な箇所が多い。堆積土は5層に大別される。底面ではピット1基が検出され、規模は長さ40cm、検出面からの深さは20cmである。平面形は隅丸方形を呈し、断面形は「U」字形を呈する。堆積土は3層に分層され、1層は柱痕跡で、径約15cmの柱材が用いられたと推定される。遺物は土師器、土製品などが出土しており、そのうち、土師器1点、土製品1点を図示した。

2. 井戸跡

S E 1井戸跡（第24・36図、写真図版9）

22グリッドに位置し、S D 4を切る。規模は長軸126cm、短軸106cm、検出面からの深さは124cmである。平面形は不整橈円形で、断面形は逆台形を呈し、底面から急に立ち上がるが、西側は壁面中位から緩やかに外傾する。堆積土は5層に分層され、1・2層は黒色～オリーブ黒色シルト、3～5層は黒色粘土質シルトを主体とする。井戸枠や石組みなどの痕跡が確認されなかったことから、素掘りの井戸と考えられる。遺物は出土しなかった。

S E 2井戸跡（第24・36図、写真図版9）

19・20グリッドに位置し、S X 1・2に切られ、S D 1を切る。規模は長軸203cm、短軸155cm、検出面からの深さは93cmである。平面形は橈円形で、断面形は逆台形を呈し、底面からの立ち上がりはS E 1に比べ、緩やかである。堆積土は6層に分層され、1・2層はオリーブ黒色シルト、3～6層は黒色～黒褐色粘土を主体とする。井戸枠や石組みなどの痕跡が確認されなかったことから、素掘りの井戸と考えられる。遺物は土師器、金属製品が出土しているが、細片のため図示し得なかった。

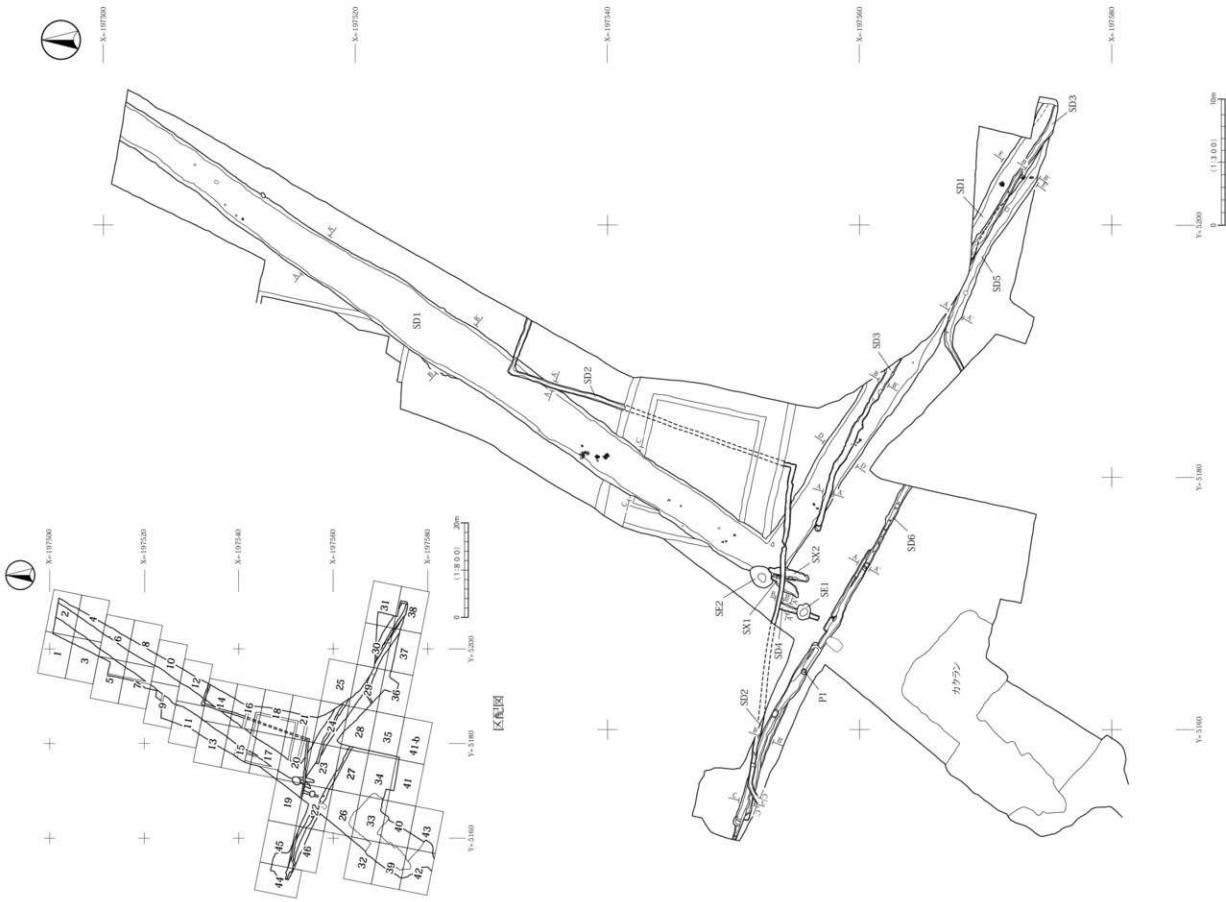
3. 性格不明遺構

S X 1性格不明遺構（第24・37図、写真図版9）

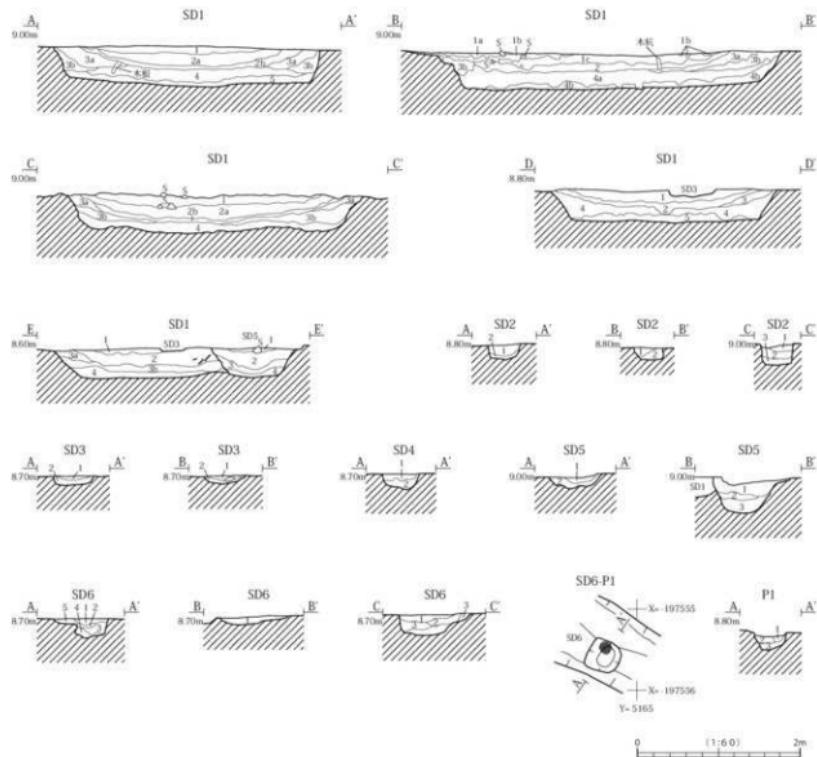
19・20・22・23グリッドに位置し、S D 2に切られ、S D 1、S E 2、S X 2を切る。規模は長軸258cm、短軸88cm、検出面からの深さは15cmである。平面形は不整橈円形で、断面形は不整形を呈し、底面は凹凸が頗著である。堆積土は単層でオリーブ黒色シルトを主体とする。遺物は土師器が出土しているが、細片のため図示し得なかった。

S X 2性格不明遺構（第24・37図、写真図版9）

20・23グリッドに位置し、S D 2、S X 1に切られる。規模は長軸328cm、短軸81cm、検出面からの深さは13cmである。平面形は不整橈円形で、断面形は不整形を呈し、底面は凹凸が頗著である。堆積土は単層でオリーブ黒色シルトを主体とする。遺物は土師器が出土しているが、細片のため図示し得なかった。



第24図 本調査区遺構配置図

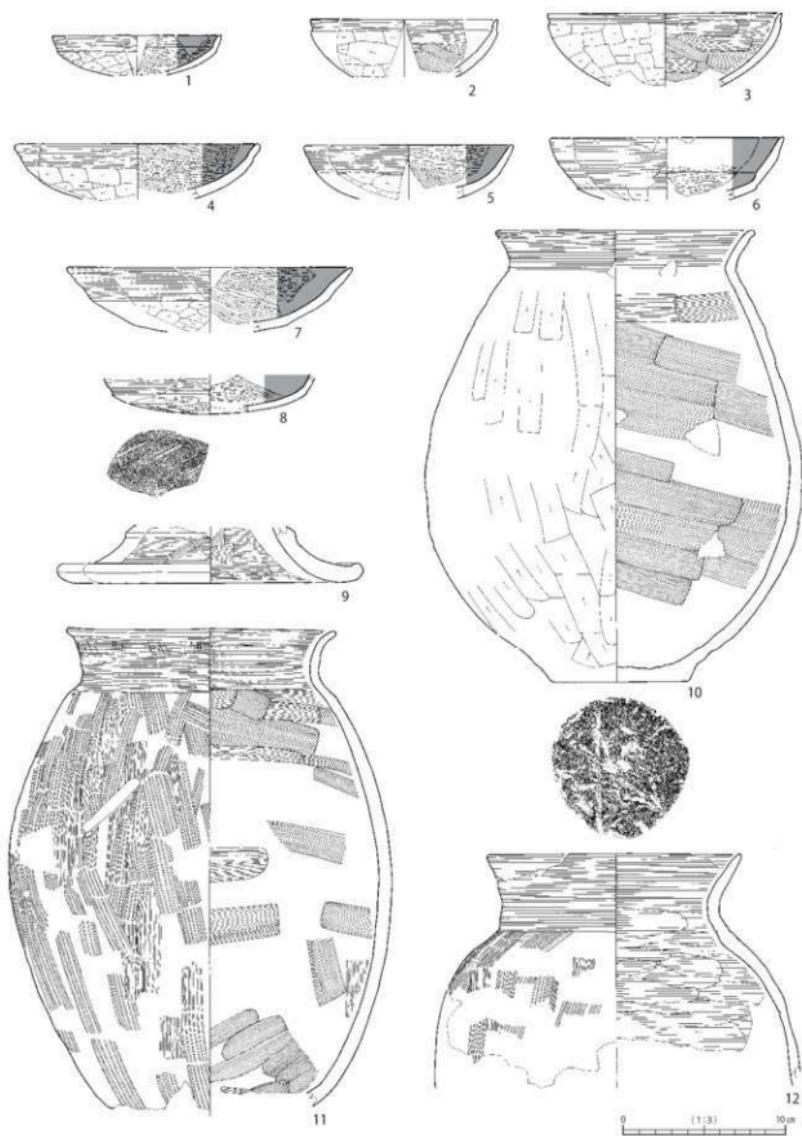


第25図 SD 1~6溝跡・SD 6ピット1

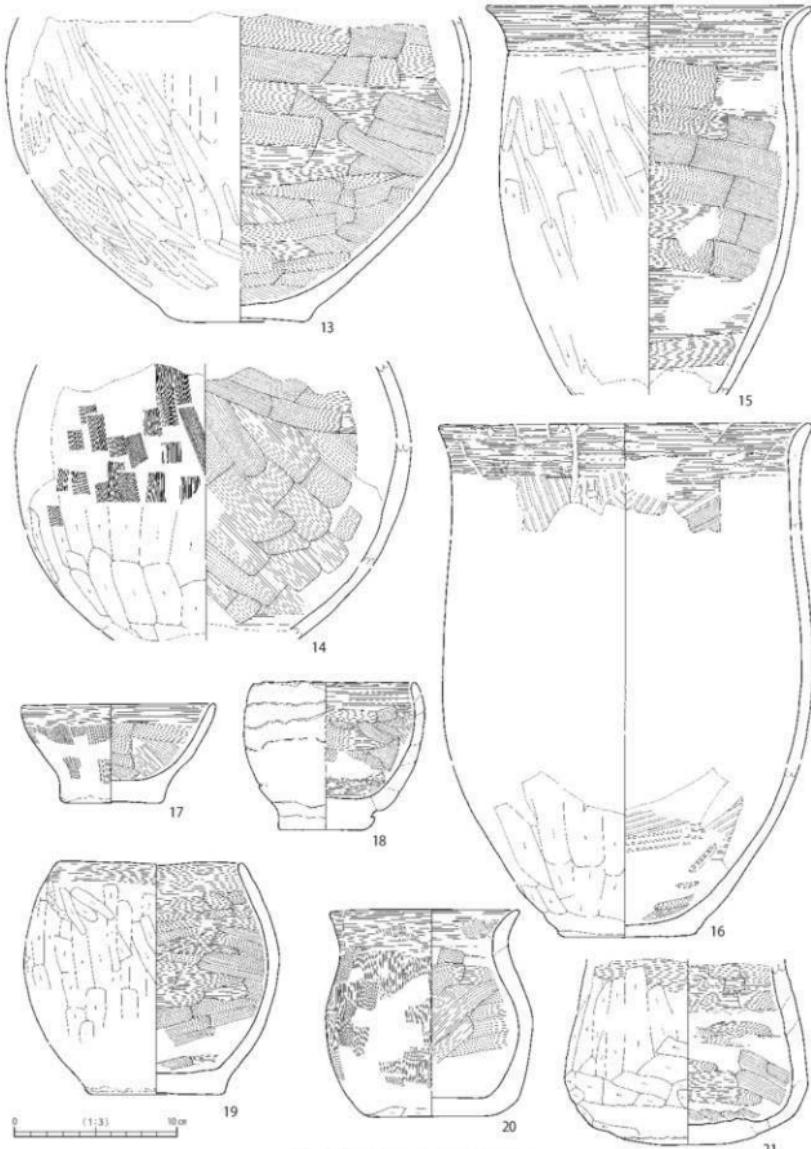
遺構名	グリット	裏板関係	方向	幅(cm)				備考
				前S	上幅	下幅	底さ	
SD1 1~17・20・23~25・ 28~31・37・38	SD2, SD1+2, SX1+2に 切られる。	SD2, SD1+2, SX1+2に 切られる。	N-35°・E N-57°・W	(10550)	240~430	190~370	14~59	
SD2 12・14・16・18~21・46	SD1+4・6, SX1+2を切る。	SD1+4・6, SX1+2を切る。	N-19°・E N-80°・W	(4890)	16~48	6~35	4~26	
SD3 23~25・30・31・37・38	SD1+5を切る。	SD1+5を切る。	N-58~74°・W	(3800)	30~78	8~54	2~16	
SD4 22	SD2, SD1に切られる。	SD2, SD1に切られる。	N-19°・E	320	35~55	20~40	4~16	
SD5 29・30・37・38	SD3に切られ, SD1を切る。	SD3に切られ, SD1を切る。	N-64°・E N-57~69°・W	(1910)	32~110	14~63	5~40	
SD6 22・23・27・28・44・46	SD2に切られる。	SD2に切られる。	N-60~73°・W	(3150)	25~103	12~77	2~28	底面でピット1基使用。

SD 1～6溝跡・SD 6ピット1土層註記

地名	層位	上色	下色	性質	備考
SD 1 A-A'	1	7.5YV/1 黒色		シルト	下部で砂を少量含む。
	2a	7.5GV/4 剛柔灰色		砂質シルト	水成堆積。砂粒は上部で細く、下部で炭化物を少量含む。薄い層が何箇も重なり堆積。
	2b	7.5V3/1 オリーブ黒色		シルト	炭化鉄を含む。東で7.5Y3/1 オリーブ色土が層状に、7.5Y/2 黄オリーブ色砂が層状に堆積。
	3a	7.5V3/1 オリーブ黒色		シルト	上部で7.5X/4 黄オリーブ色砂とシルトブロック・7.5V2/1 黑色シルトブロックを夾む。7.5Y/2 黄オリーブ色粘土。
	3b	2.5GV/3/1 剛柔オリーブ灰色		粘土質シルト	7.5Y/2 黄オリーブ色土とブロックを多量含む。7.5Y/2 黄色上ブロックを多量含む。
	4	7.5YV/1 黑色		シルト	炭化鉄を全く含む。
SD 1 B-B'	5	2.5V3/1 黄褐色		粘土質シルト	2.5Y6/2 黄色地ブロック・炭化鉄を全く含む。
	1a	5Y2/1 黑色		シルト	径15mm程の粒で、10Y6/2 オリーブ色土ブロックを含む。
	1b	5V3/1 オリーブ黒色		シルト	[1a]とドロップで、下部で10G/2 黄褐色土が層状に堆積し、砂を微量含む。
	1c	5V4/1 黄色		砂礫	上部で5G/2 黄褐色・5Y/2 黄褐色で、下部になるにつれて粒子は細くなる。初硬膜の間に7.5Y4/1 黄色地シルトが形成され堆積。
	2	7.5V4/1 黄色		砂質シルト	水成堆積。7.5Y/2 黄オリーブ色地砂質シルトが薄く何箇も重なり堆積。1c層に比べ粒子の細い・沙質。炭化物と、酸化物を少額含む。下部を7.5V4/1 黄色。
	3a	5Y3/1 オリーブ黒色		粘土質シルト	5Y2/1 黑色地ブロック・7.5V4/2 黄オリーブ色土ブロックを全体に含む。
SD 1 C-C'	3b	5V3/2 オリーブ黒色		粘土質シルト	7.5Y/2 黄オリーブ色地砂質シルトを全体に含む。7.5Y/2 黄色上ブロックを含む。
	4a	5V4/1 黄色		粘土質シルト	10Y2/2 黑色地ブロック・2.5Y6/2 黄褐色土ブロックを全体に含む。初期でグライ化した7.5V4/2 黄オリーブ色土を含む。
	4b	10V4/1 黄褐色		粘土質シルト	2.5Y6/2 黄褐色上ブロック・炭化鉄を全体に含む。
	1	2.5V3/1 黄褐色		シルト	径1-3mm程の砂を微量含む。
	2a	10V4/1 黄褐色		粘土質シルト	水成堆積。炭化鉄を全体に含む。下部で2.5V6/3 に至る、黄色地質土が薄い層状に堆積。
	2b	10V6/3 黄褐色		粘土質シルト	炭化鉄を全く含む。
SD 1 D-D'	3a	2.5V3/2 黄褐色土		シルト	7.5YR4/6 黑色地ブロック・2.5V2/1 黑色土ブロック・2.5V5/3 黄褐色土ブロックを全体に含む。グライ化鉄層。
	3b	2.5V4/1 黄褐色		粘土質シルト	炭化鉄を全く含む。2.5Y5/3 黄褐色土ブロック・2.5Y2/1 黑色土ブロックを多量含む。翌層は炭化鉄の影響で全体的に赤化。
	4	10V4/3 黄褐色		粘土質シルト	2.5Y6/2 黄褐色上ブロックを全層に多量、炭化鉄を含む。
	1	5V1/1 オリーブ黒色		シルト	水成堆積。炭化鉄を全層に少額含む。5Y5/1 黄色土が層状に堆積。
	2	2.5V4/1 黄褐色		シルト	炭化鉄と、酸化物を少額含む。7.5V3/1 黄褐色・2.5V4/1 黄褐色土が層状に堆積。
	3	10V4/1 黄色		シルト	2.5Y3/2 黄褐色土と、5Y3/1 黄色地オリーブ色土を含む。
SD 1 E-E'	4	2.5V4/1 黄褐色		粘土質シルト	2.5V5/2 黄褐色土と、2.5V1/1 黄色土を含む。豊野で炭化鉄の影響を受けた7.5YR4/6 黄色土が堆積。
	5	5V1/1 黄色		粘土質シルト	2.5Y6/2 黄褐色土と、7.5V6/2 黄褐色上ブロックを全層に多量含む。北側で7.5YR4/6 黄色地炭化鉄が層状に堆積。
	1	5V3/2 オリーブ黒色		シルト	炭化鉄を全く含む。
	2	5V3/1 オリーブ黒色		シルト	水成堆積。炭化鉄を全層に少額含む。
	3a	5V4/2 黄オリーブ色		粘土質シルト	炭化鉄を含む。タガ子地。
	3b	2.5V6/2 黄褐色		粘土質シルト	7.5YR5/6 明顯な炭化鉄が層状に堆積。豊野で5Y5/3 黄オリーブ色土を含む。
SD 1 F-F'	4	2.5V4/2 黄褐色		粘土質シルト	5V5/2 黄オリーブ色地シルトを全層に多量含む。豊野で7.5YR4/6 黄色地炭化鉄が層状に堆積。
	1	5V2/1 黑色		シルト	上部で2.5V4/3 オリーブ色土・5Y3/1 オリーブ色土の上部ブロックを含む。下部で2.5Y4/3 オリーブ色土・1+7.5YR5/6 黄褐色土・2.5Y5/1 オリーブ色土がレンズ状に堆積。
	2	7.5V2/1 黑色		粘土質シルト	10Y5/1 緑色地粘土シルトが薄く層状に堆積。
	1	5V3/1 オリーブ黒色		シルト	5V2/1 黑色土ブロックを少額含む。炭化鉄を微量含む。
	2	10Y3/2 オリーブ黒色		粘土質シルト	炭化鉄を全層に含む。10Y4/2 黄オリーブ色土が層状に堆積。
	3	7.5V3/1 オリーブ黒色		粘土質シルト	10Y4/2 黄オリーブ色地シルトを少額含む。
SD 2 A-A'	1	7.5V2/1 オリーブ黒色		シルト	5Y4/2 黄褐色土ブロックを少額含む。炭化鉄を微量含む。
	2	7.5V2/1 黑色		粘土質シルト	10Y5/1 緑色地粘土シルトが薄く層状に堆積。
	1	5V3/1 オリーブ黒色		シルト	5Y2/1 黑色土ブロックを少額含む。炭化鉄を微量含む。
	2	5V2/1 黑色		粘土質シルト	10Y4/2 黄褐色土と、5Y3/1 黄褐色土を含む。
	3	7.5V3/1 オリーブ黒色		粘土質シルト	10Y4/2 黄オリーブ色地シルトを少額含む。
	4	7.5V2/1 オリーブ黒色		シルト	5V4/2 黄オリーブ色地シルトと、2.5V6/2 黄褐色上ブロック・炭化鉄を全層に含む。豊野で炭化鉄の影響を受けた7.5YR4/6 黄色土が堆積。
SD 2 B-B'	1	5V3/2 黄褐色		シルト	5V6/2 黄褐色土と、7.5V6/2 黄褐色上ブロックを含む。
	2	5V4/2 黄褐色		シルト	炭化鉄を含む。タガ子地。
	3	2.5V6/2 黄褐色		シルト	7.5YR5/6 明顯な炭化鉄が層状に堆積。豊野で5Y5/3 黄オリーブ色土を含む。
	4	2.5V4/2 黄褐色		粘土質シルト	5V5/2 黄オリーブ色地シルトを全層に含む。
	5	5V1/1 黄色		粘土質シルト	2.5Y6/2 黄褐色土と、7.5V6/2 黄褐色上ブロックを含む。
	6	2.5V4/1 黄褐色		シルト	上部で2.5V6/1 黄色土を含む。
SD 2 C-C'	1	5V2/1 黑色		シルト	上部で2.5V4/3 オリーブ色土・5Y3/1 オリーブ色土の上部ブロックを含む。下部で2.5Y4/3 オリーブ色土・1+7.5YR5/6 黄褐色土・2.5Y5/1 オリーブ色土がレンズ状に堆積。
	2	5V2/1 黑色		粘土質シルト	10Y5/1 緑色地粘土シルトが薄く層状に堆積。
	1	7.5V3/1 オリーブ黒色		シルト	5Y2/1 黑色土ブロックを少額含む。炭化鉄を微量含む。
	2	10Y3/2 オリーブ黒色		粘土質シルト	炭化鉄を全層に含む。10Y4/2 黄オリーブ色土が層状に堆積。
	3	7.5V3/1 オリーブ黒色		粘土質シルト	10Y4/2 黄オリーブ色地シルトを少額含む。
	4	7.5V2/1 オリーブ黒色		シルト	5V4/2 黄オリーブ色地シルトと、2.5V6/2 黄褐色上ブロックを全層に多量含み、炭化鉄を全層に含む。翌層は炭化鉄の影響を受けた7.5YR5/6 黄色土が堆積。
SD 2 D-D'	1	10V3/1 黑色地・1+10Y5/6 に少額黄褐色土のワッカ層		シルト	10Y4/2 黄褐色土ブロックを含む。
	2	10Y5/3 に少額黄褐色土のワッカ層		シルト	10Y4/2 黄褐色土ブロックを含む。
	1	7.5V3/1 オリーブ黒色		粘土質シルト	5Y2/1 黑色土ブロックを少額含む。炭化鉄を微量含む。
	2	10Y3/2 オリーブ黒色		粘土質シルト	炭化鉄を全層に含む。10Y4/2 黄オリーブ色土が層状に堆積。
	3	7.5V3/1 オリーブ黒色		粘土質シルト	10Y4/2 黄オリーブ色地シルトを少額含む。
	4	7.5V2/1 オリーブ黒色		シルト	5V4/2 黄オリーブ色地シルトと、2.5V6/2 黄褐色上ブロックを全層に多量含み、炭化鉄を全層に含む。翌層は炭化鉄の影響を受けた7.5YR5/6 黄色土が堆積。
SD 2 E-E'	1	10V3/1 黑色地・1+10Y5/6 に少額黄褐色土のワッカ層		シルト	10Y4/2 黄褐色土ブロックを含む。
	2	10Y5/3 に少額黄褐色土のワッカ層		シルト	10Y4/2 黄褐色土ブロックを含む。
	1	5V3/1 オリーブ黒色		粘土質シルト	5Y2/1 黑色土ブロックを少額含む。炭化鉄を微量含む。
	2	10Y3/2 オリーブ黒色		粘土質シルト	炭化鉄を全層に含む。10Y4/2 黄オリーブ色土が層状に堆積。
	3	7.5V3/1 オリーブ黒色		粘土質シルト	10Y4/2 黄オリーブ色地シルトを少額含む。
	4	7.5V2/1 黄褐色		シルト	5V4/2 黄オリーブ色地シルトと、2.5V6/2 黄褐色上ブロックを全層に多量含み、炭化鉄を全層に含む。翌層は炭化鉄の影響を受けた7.5YR5/6 黄色土が堆積。
SD 2 F-F'	1	5V3/1 オリーブ黒色		粘土質シルト	5Y4/2 黄オリーブ色地シルトを全層に含む。
	2	2.5V3/1 黄褐色		粘土質シルト	炭化鉄を全く含む。
	1	5V3/1 オリーブ黒色		粘土質シルト	5Y3/2 黄オリーブ色地シルトを少額含む。
	2	2.5V3/1 黄褐色		粘土質シルト	炭化鉄を全く含む。
	3	5V3/1 オリーブ黒色		粘土質シルト	5Y3/2 黄オリーブ色地シルトを少額含む。
	4	2.5V4/1 黄褐色		粘土質シルト	5Y2/1 黑色土と、7.5V6/2 黄褐色上ブロックを含む。
SD 3 A-A'	1	10V3/1 黑色地・1+10Y5/6 に少額黄褐色土のワッカ層		シルト	10Y4/2 黄褐色土ブロックを含む。
	2	10Y5/3 に少額黄褐色土のワッカ層		シルト	10Y4/2 黄褐色土ブロックを含む。
	1	5V2/1 黑色		粘土質シルト	5Y3/2 黑色土ブロックを少額含む。炭化鉄を微量含む。
	2	10Y3/2 黑色		粘土質シルト	炭化鉄を全層に含む。10Y4/2 黄オリーブ色土が層状に堆積。
	3	5V2/1 黑色		粘土質シルト	5Y3/2 黑色土ブロックを少額含む。
	4	2.5V4/1 黄褐色		シルト	5Y2/1 黑色土と、7.5V6/2 黄褐色上ブロックを含む。
SD 3 B-B'	1	5V3/1 オリーブ黒色		粘土質シルト	5Y4/2 黄オリーブ色地シルトを全層に含む。
	2	2.5V3/1 黄褐色		粘土質シルト	炭化鉄を全く含む。
	1	5V3/1 オリーブ黒色		粘土質シルト	5Y3/2 黄オリーブ色地シルトを少額含む。
	2	2.5V3/1 黄褐色		粘土質シルト	炭化鉄を全く含む。
	3	5V3/1 オリーブ黒色		粘土質シルト	5Y3/2 黄オリーブ色地シルトを少額含む。
	4	2.5V4/1 黄褐色		シルト	5Y2/1 黑色土と、7.5V6/2 黄褐色上ブロックを含む。
SD 3 C-C'	1	5V2/2 オリーブ黒色		シルト	5Y5/2 黄オリーブ色地シルトを全層に含む。
	2	2.5V2/3 黄オリーブ黒色		粘土質シルト	炭化鉄を全く含む。
	1	5V2/1 黑色		粘土質シルト	5Y4/2 黄オリーブ色地シルトを少額含む。
	2	2.5V2/2 黄褐色		粘土質シルト	炭化鉄を全く含む。
	3	5V2/1 黑色		粘土質シルト	5Y4/2 黄オリーブ色地シルトを少額含む。
	4	2.5V3/1 黄褐色		シルト	5Y3/2 黄オリーブ色地シルトを全層に含む。
SD 3 D-D'	1	5V3/1 オリーブ黒色		シルト	5Y4/2 黄オリーブ色地シルトを全層に含む。
	2	2.5V3/1 黄オリーブ黒色		粘土質シルト	炭化鉄を全く含む。
	1	5V2/1 黑色		粘土質シルト	5Y3/2 黄オリーブ色地シルトを少額含む。
	2	2.5V2/2 黄褐色		粘土質シルト	炭化鉄を全く含む。
	3	5V2/1 黑色		粘土質シルト	5Y3/2 黄オリーブ色地シルトを少額含む。
	4	2.5V3/1 黄褐色		シルト	5Y3/2 黄オリーブ色地シルトを全層に含む。
SD 3 E-E'	1	5V2/2 オリーブ黒色		シルト	5Y5/2 黄オリーブ色地シルトを全層に含む。
	2	2.5V2/3 黄オリーブ黒色		粘土質シルト	炭化鉄を全く含む。
	1	5V2/1 黑色		粘土質シルト	5Y4/2 黄オリーブ色地シルトを少額含む。
	2	2.5V2/2 黄褐色		粘土質シルト	炭化鉄を全く含む。
	3	5V2/1 黑色		粘土質シルト	5Y4/2 黄オリーブ色地シルトを少額含む。
	4	2.5V3/1 黄褐色		シルト	5Y3/2 黄オリーブ色地シルトを全層に含む。
SD 3 F-F'	1	5V2/2 オリーブ黒色		シルト	5Y5/2 黄オリーブ色地シルトを全層に含む。
	2	2.5V2/3 黄オリーブ黒色		粘土質シルト	炭化鉄を全く含む。
	1	5V2/1 黑色		粘土質シルト	5Y3/2 黄オリーブ色地シルトを少額含む。
	2	2.5V2/2 黄褐色		粘土質シルト	炭化鉄を全く含む。
	3	5V2/1 黑色		粘土質シルト	5Y3/2 黄オリーブ色地シルトを少額含む。
	4	2.5V3/1 黄褐色		シルト	5Y3/2 黄オリーブ色地シルトを全層に含む。
SD 3 G-G'	1	5V2/2 オリーブ黒色		シルト	5Y5/2 黄オリーブ色地シルトを全層に含む。
	2	2.5V2/3 黄オリーブ黒色		粘土質シルト	炭化鉄を全く含む。
	1	5V2/1 黑色		粘土質シルト	5Y4/2 黄オリーブ色地シルトを少額含む。
	2	2.5V2/2 黄褐色		粘土質シルト	炭化鉄を全く含む。
	3	5V2/1 黑色		粘土質シルト	5Y4/2 黄オリーブ色地シルトを少額含む。
	4	2.5V3/1 黄褐色		シルト	5Y3/2 黄オリーブ色地シルトを全層に含む。
SD 3 H-H'	1	5V2/2 オリーブ黒色		シルト	5Y5/2 黄オリーブ色地シルトを全層に含む。
	2	2.5V2/3 黄オリーブ黒色		粘土質シルト	炭化鉄を全く含む。
	1	5V2/1 黑色		粘土質シルト	5Y3/2 黄オリーブ色地シルトを少額含む。
	2	2.5V2/2 黄褐色		粘土質シルト	炭化鉄を全く含む。
	3	5V2/1 黑色		粘土質シルト	5Y3/2 黄オリーブ色地シルトを少額含む。
	4	2.5V3/1 黄褐色		シルト	5Y3/2 黄オリーブ色地シルトを全層に含む。
SD 3 I-I'	1	5V2/2 オリーブ黒色		シルト	5Y5/2 黄オリーブ色地シルトを全層に含む。
	2	2.5V2/3 黄オリーブ黒色		粘土質シルト	炭化鉄を全く含む。
	1	5V2/1 黑色		粘土質シルト	5Y4/2 黄オリーブ色地シルトを少額含む。
	2	2.5V2/2 黄褐色		粘土質シルト	炭化鉄を全く含む。
	3	5V2/1 黑色		粘土質シルト	5Y4/2 黄オリーブ色地シルトを少額含む。
	4	2.5V3/1 黄褐色		シルト	5Y3/2 黄オリーブ色地シルトを全層に含む。
SD 3 J-J'	1	5V2/2 オリーブ黒色		シルト	5Y5/2 黄オリーブ色地シルトを全層に含む。
	2	2.5V2/3 黄オリーブ黒色		粘土質シルト	炭化鉄を全く含む。
	1	5V2/1 黑色		粘土質シルト	5Y3/2 黄オリーブ色地シルトを少額含む。
	2	2.5V2/2 黄褐色		粘土質シルト	炭化鉄を全く含む。
	3	5V2/1 黑色		粘土質シルト	5Y3/2 黄オリーブ色地シルトを少額含む。
	4	2.5V3/1 黄褐色		シルト	5Y3/2 黄オリーブ色地シルトを全層に含む。
SD 3 K-K'	1	5V2/2 オリーブ黒色		シルト	5Y5/2 黄オリーブ色地シルトを全層に含む。
	2	2.5V2/3 黄オリーブ黒色		粘土質シルト	炭化鉄を全く含む。
	1	5V2/1 黑色		粘土質シルト	5Y4/2 黄オリーブ色地シルトを少額含む。
	2	2.5V2/2 黄褐色		粘土質シルト	炭化鉄を全く含む。
	3	5V2/1 黑色		粘土質シルト	5Y4/2 黄オリーブ色地シルトを少額含む。
	4	2.5V3/1 黄褐色		シルト	5Y3/2 黄オリーブ色地シルトを全層に含む。
SD 3 L-L'	1	5V2/2 オリーブ黒色		シルト	5Y5/2 黄オリーブ色地シルトを全層に含む。
	2	2.5V2/3 黄オリーブ黒色		粘土質シルト	炭化鉄を全く含む。
	1	5V2/1 黑色		粘土質シルト	5Y3/2 黄オリーブ色地シルトを少額含む。
	2	2.5V2/2 黄褐色		粘土質シルト	炭化鉄を全く含む。
	3	5V2/1 黑色		粘土質シルト	5Y3/2 黄オリーブ色地シルトを少額含む。
	4	2.5V3/1 黄褐色		シルト	5Y3/2 黄オリーブ色地シルトを全層に含む。
SD 3 M-M'	1	5V2/2 オリーブ黒色		シルト	5Y5/2 黄オリーブ色地シルトを全層に含む。
	2	2.5V2/3 黄オリーブ黒色		粘土質シルト	炭化鉄を全く含む。
	1	5V2/1 黑色		粘土質シルト	5Y4/2 黄オリーブ色地シルトを少額含む。
	2	2.5V2/2 黄褐色		粘土質シルト	炭化鉄を全く含む。
	3	5V2/1 黑色		粘土質シルト	5Y4/2 黄オリーブ色地シルトを少額含む。
	4	2.5V3/1 黄褐色			



第26図 SD1溝跡出土遺物（1）



第27図 SD1溝跡出土遺物（2）



第28図 SD1溝跡出土遺物（3）